

だい じしじょうなわてし こ どくしょかつどうすいしんけいかく  
第4次四條畷市子ども読書活動推進計画

---

れいわ ねんど ねんど ねんど  
令和6(2024)年度—令和10(2028)年度

れいわ ねん がつ  
令和6(2024)年3月

しじょうなわてし きょういくいいんかい  
四條畷市教育委員会

# もくじ

## 第1章 子ども読書活動推進計画策定の趣旨

1 本市の子ども読書活動推進計画策定の経緯	1
2 本市の計画の位置づけ	1
3 基本方針	2
4 第4次計画策定の趣旨	3
5 対象年齢と取組み期間	4

## 第2章 本市第3次計画の取組み状況

1 第3次計画における重点施策の状況	6
2 現状と課題～市立図書館における統計から～	7
3 現状と課題～アンケート調査結果から～	9

## 第3章 本市第4次計画の施策の方向性

1 読書活動の推進に関連する最近の国の動向	14
2 国の最新計画について	15
3 大阪府の最新計画について	15
4 基礎自治体としての本市第4次計画における施策の方向性	16
5 成果指標と重点施策	17

## 第4章 第4次計画推進のための施策

1 就学前の子どもたちへの施策	20
2 就学後の子どもたちへの施策	25
3 その他の取組み	32

## 第5章 市立図書館における大人に向けた読書活動の推進について

1 子ども読書活動の推進の観点から	37
2 大人読書活動推進のための方向性	37
3 新たな方向性を踏まえた施策の展開	39
4 施策の展開と合わせた取組み	40

## (巻末) 子どもの読書活動に関するアンケート調査結果

注) 文中の※印は用語解説(数字)・注釈(アルファベット)であり、各章末に記載。

# 第1章 子ども読書活動推進計画策定の趣旨

## 1 本市の子ども読書活動推進計画策定の経緯

平成2年9月、紛争や暴力、貧困、環境問題などにより、子どもの人権に対して世界的に懸念が高まるなか、世界初の「子どものための世界サミット」が国連本部で開かれ、「子どもを政治の最優先に」することが誓い合われました。

こうした状況を背景に、子どもの人権の状況については、国際間のさらなる努力が必要であるとともに、「20世紀の反省と教訓の上に立って、新しい世紀を担う地球上のすべての子どもたちに、人権を尊重し、恒久平和の実現と繁栄に努め、伝統的な文化遺産を継承することを託さなければならない」との考えのもと、国は、言葉、感性、情緒、表現力、創造力などを豊かにする読書の計り知れない価値に期待し、同12年、国際子ども図書館を開館するとともに、同年を子ども読書年<sup>※</sup>とすることが、国会において採択されました。

これらの理念をもとに、子どもの読書活動を総合的かつ計画的に推進するため、基本理念や国および地方自治体の責務などを定めた「子どもの読書活動の推進に関する法律」（以下、「同法」という。）が同13年12月に公布されました。

この法律の趣旨を具体的に推進していくため、同法第八条に基づき、国は同14年8月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（第一次）を策定し、続いて同法第九条第1項に基づき、大阪府が同15年1月に「子ども読書活動推進計画」（第1次）を策定しました。

これら国と大阪府の計画策定を踏まえ、本市においても、子ども関連部署および施設が一体となり、体系づけられた施策のもと効果的に子どもの読書活動の推進に取り組むことを趣旨に、同法第九条第2項に基づき、同19年3月に「第1次四條畷市子ども読書活動推進計画」（以下、「第1次計画」という。）を策定しました。

その後、おおむね5年ごとに各次計画における課題や社会情勢の変化などを踏まえつつ更新することとし、同26年3月に「第2次四條畷市子ども読書活動推進計画」（以下、「第2次計画」という。）を、また同31年3月には「第3次四條畷市子ども読書活動推進計画」（以下、「第3次計画」という。）を策定のもと、本市の子どもたちの読書環境の向上に努めているところです。

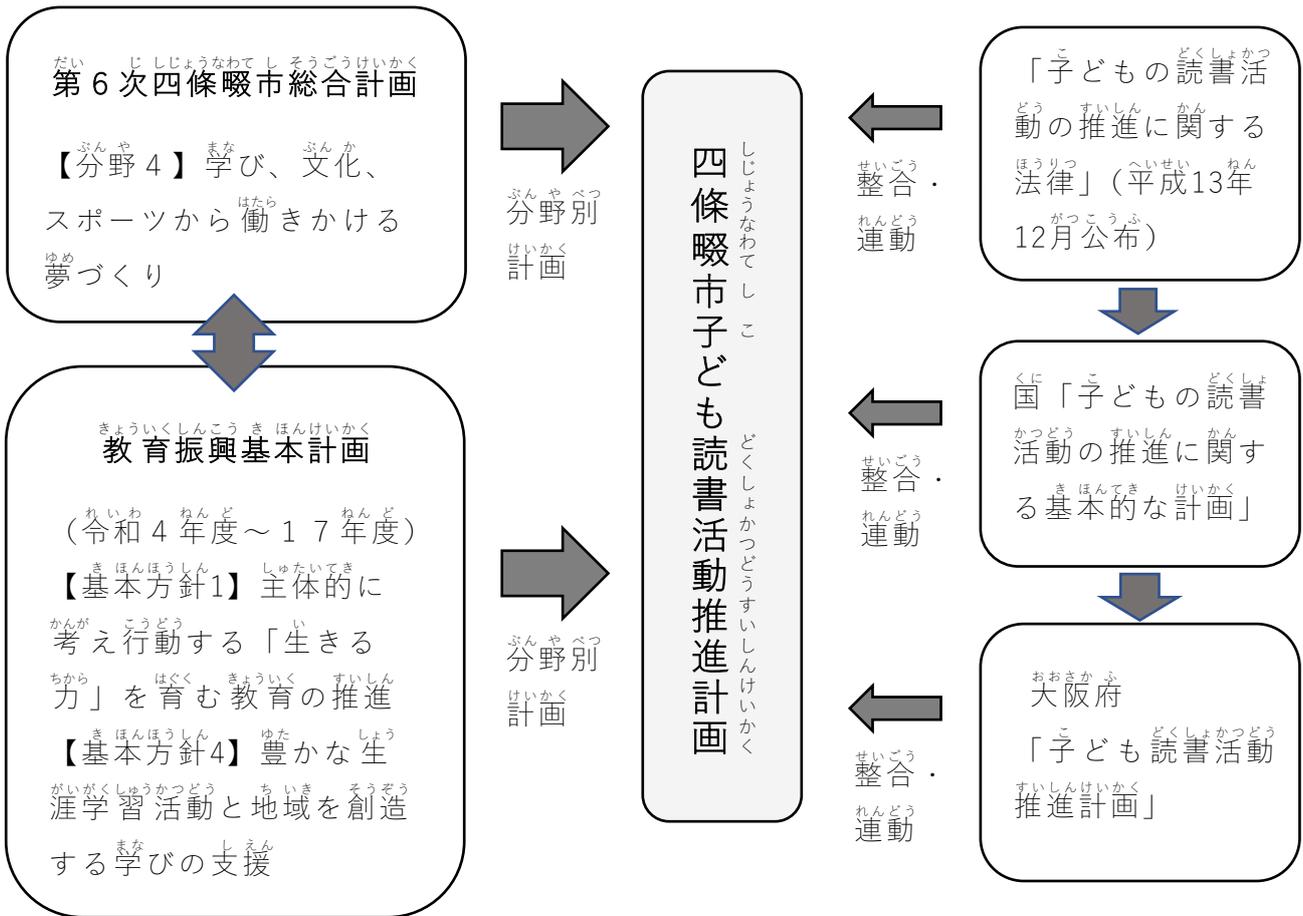
## 2 本市計画の位置づけ

本市の子ども読書活動推進計画は、前節のとおり、「子どもの読書活動の推進に関する

「法律」第九條第二項の規定に基づき、国が策定する「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」および大阪府が策定する「子ども読書活動推進計画」を踏まえて策定しています。

また、本市の施策の方向性を定める「第6次総合計画」(【分野4】学び、文化、スポーツから働きかける夢づくり)、および本市教育行政の方向性や施策を定める「教育振興基本計画」の分野別計画として位置づけられています。

<計画の位置づけ(イメージ図)>



3 基本方針

計画を推進するにあたっては、柱となる変わらぬ基本方針を定めており、各次計画において理念としての機能を果たしています。

1 子どもが読書に親しむ機会の提供

家庭、地域、学校等で、子どもが読書の楽しさを知り、自ら進んで読書活動を広げられるよう、読書機会の拡大を図ります。

## 2 読書環境の整備、充実

子どもの身近に、読みたくなるような魅力的な本があり、いつでもどこでも読めるような読書環境の整備、充実に努めます。

## 3 家庭、地域、学校等を通じた社会全体での取組みの推進

子どもの読書活動を支え、活性化していくために、家庭を核としながら、地域、学校、図書館が一体となり、子どもの読書活動を推進します。

## 4 子ども読書情報の提供と啓発

保護者をはじめ、子どもに関わる大人が読書活動の意義や推進について関心と理解を深めてもらうため、情報提供に努めつつ、啓発事業を行います。

併せて、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため設けられた4月23日の「子ども読書の日※2」の効果的な啓発広報に取り組みます。

## 4 第4次計画策定の趣旨

本市が第3次計画を策定してから5年が経過しました。この間、図書館や読書環境を取り巻く社会情勢の変化が多方面でみられました。

SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）※3を始めとするICT（情報通信技術）関連の発達は一層顕著であるほか、ChatGPT※4などのAI技術の発展、また学校でのGIGAスクール構想※5の導入など、社会における情報のデジタル化が年々速度を増しています。

情報のデジタル化の進展は、求める情報が容易に得られる反面、情報過多を招きやすいため、情報の取捨選択能力が必要となります。こうした情報リテラシー※6の観点においては、読解力や思考力が育まれる読書は資するところが大きいといえ、情報のデジタル化が進めば進むほど、読書から得られる意義は大きくなっているといえます。

また、この5年間の社会情勢の変化においては、新型コロナウイルス感染症拡大（以下、「コロナ禍」という。）の影響は看過できません。外出制限や学校の休業など、私たちの生活は大きな変化を強いられました。図書館においても例外ではなく、長期にわたる休館や利用制限の実施を余儀なくされ、第2章で触れるとおり、図書館利用の習慣が途切れたと思われる市民が多くみられる状況となりました。

その他にも、益々進む少子高齢化と人口減少による図書館の利用状況の変化、またSDGs※7の考え方の浸透による教育や人権に対する関心の高まりなど、図書館や読書環境を取り巻く社会情勢の変化は枚挙にいとまがないほどです。

なかでも、令和4年に始まったウクライナ戦争や令和5年に勃発したパレスチナでの紛争は重要と考えます。日々戦地の惨状が報じられており、本章の「1 本市の子ども読書活動推進計画策定の経緯」で触れた「子どもの読書活動の推進に関する法律」制定の

背景に平和への希求があるならば、「読書の計り知れない価値」に今こそ期待すべき時です※A。

こうした種々の情勢に鑑み、第3次計画の計画期間が令和6年3月を以て終了するにあたって、各施策をより効果的なものにする趣旨に取組みの見直しを行い、今後も継続的な読書活動の推進を図るため、「第4次四條畷市子ども読書活動推進計画」（以下、「第4次計画」という。）を策定することとします。

## 5 対象年齢と取組み期間

### (1) 対象年齢

子どもの読書活動の推進に関する法律第二条に定められるとおり、子どもをおおむね18歳以下と定義し、本計画の対象年齢とします。

### (2) 取組み期間

大阪府が策定する子ども読書活動推進計画に準じ、おおむね5年間とします。取組み期間の開始を令和6年度からとし、開始から5年経過後、取組みの検証を行ったうえ、次期計画策定の予定と第4次計画の終了時期を決定することとします。ただし、国や大阪府の子ども読書活動の推進にかかる動向及び社会情勢の変化などを踏まえ、必要があれば見直しを行います。

## 用語解説

### ※1) 子ども読書年

「読書の持つ計り知れない価値を認識して、子どもたちの読書活動を国を挙げて応援するため」（参議院決議文より）、平成12年（2000年）5月5日のこどもの日に、国立国際子ども図書館が開館するのに合わせ、同年を子ども読書年とする国会決議が同11年（1999年）8月になされた。日本の国会史上初めて、「読書」推進事業を両院で決議、採択した。

### ※2) 子ども読書の日

「子どもの読書活動の推進に関する法律第十条」に4月23日と定められている。国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために設けられた。

### ※3) SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）

ソーシャルネットワーキングサービス（Social Networking Service）の略で、登録

された利用者同士が交流できるWebサイトの会員制サービス。

#### ※4) ChatGPT

令和4年(2022年)11月に発表された会話形式で文章を生成するAI(人工知能)。「GPT」は「Generative Pre-trained Transformer」の略。

#### ※5) GIGAスクール構想

令和元年度(2019年度)から始まった児童生徒にひとり1台の情報端末を配布のうえ、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する、教育のICT(情報通信技術)化に向けた文部科学省による取り組み。「GIGA」は「Global and Innovation Gateway for All」の略。

#### ※6) 情報リテラシー

さまざまな情報を適切に判断し、活用する能力。

#### ※7) SDGs

平成27年(2015年)9月の国連サミットで採択された、17のゴールと169のターゲットからなる2030年までに達成すべき持続可能な開発目標。「Sustainable Development Goals」の略。

#### 注釈

※A) 本から得られる知識や言葉の価値については、ノーベル平和賞を受賞したマラ・ユスフザイ氏が2013年7月12日に国連本部で行ったスピーチが示唆に富んでいる。「(抜粋)私たちは言葉の力と強さを信じています。私たちの言葉で世界を変えることができます。私たちはともに、団結して教育を求めているからです。その目的を達成するために、知識という武器を装備し、連帯と団結という盾で身を守ってゆこうではありませんか。～(中略)～私たちの兄弟姉妹が、明るく平和な未来を待ち望んでいることを忘れてはならないのです。ですから、本とペンを手に取り、全世界の無学、貧困、テロに立ち向かいましょう。それこそ私たちにとって最も強力な武器だからです。1人の子ども、1人の教師、1冊の本、そして1本のペンが、世界を変えられるのです。教育以外に解決策はありません。教育こそ最優先です。」(国際連合広報センターのWebサイトより～[https://www.unic.or.jp/news\\_press/features\\_backgrounders/4790/](https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/4790/))

第2章 本市第3次計画の取組み状況

1 第3次計画における重点施策の状況

第3次計画では、市立の保育所とこども園、学校、そして家庭・地域、市立図書館と、読書活動の推進を行う場所別に区分のもと、推進のための施策を展開しました。

令和2年度に始まったコロナ禍の影響により、一部実施に至らなかった施策があるものの、おおむね取り組んでいる状況です。

<第3次計画推進のための施策一覧>

場所	推進のための施策(第3次計画に記載のとおり表記)
保育所、こども園	子どもの好奇心・探求心を育む取組、保護者地域への情報提供と啓発、読書環境の整備、読書に親しむ機会の提供など
小・中学校	読書習慣の定着、読書指導の充実、推進体制の強化、学校図書館の機能充実など
家庭、地域	読書の啓発、絵本の読み聞かせの実施、本と触れ合う場の提供、ブックスタート※8の実施、ボランティア団体の活動に対する支援など
市立図書館	ヤングアダルト※9へのサービス、児童書の充実と提供、おはなし会※10の実施、行事の開催、学校への支援、図書のリサイクルなど

中でも、学校図書館の活性化と中学生の読書離れ対策は、第2次計画実施期間における大きな課題であったことから、第3次計画では重点施策と位置づけました。

①学校図書館の活性化

学校図書館(以下、施策名称の場合などを除き、文中では「図書室」という。)の活性化において、専任の職員が配置されることが最重要事項と考え、平成27年度から段階的に専任職員(学校図書館支援員※11。以下、「支援員」という。)の配置を開始しました。第2次計画最終年の平成30年度時点では、小中学校全校への配置が完了していませんでした。第3次計画における最大の課題でしたが、令和2年度に全校配置を達成しました。

しかしながら、同年にコロナ禍が始まり、学校休業や図書室の利用制限などがあったため、令和2年度に支援を開始した学校は、下記のとおり図書室への年間来室回数

実績が低く、支援員※11配置について生徒への浸透が十分でないといえる状況となっています。

一方、コロナ禍以前に支援員※11配置を開始した学校の来室回数の実績を見ますと、コロナ禍以前は年々増加していたことに加え、コロナ禍初年度の令和2年度は大きく減少しながらも、その後の回復が早い学校がみられる状況です。

これら状況を踏まえると、本が利用できる環境が身近にあり、その環境が子どもたちに浸透することが読書活動の推進においていかに重要かが伺えます。

### <児童生徒1人あたり図書室への年間来室回数>

区分	年度	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4
小学校計		14.5回	15.0回	11.5回	12.5回	12.8回
中学校計		7.4回	9.6回	5.8回	6.1回	7.8回
令和2年度支援開始校		—	—	4.4回	3.9回	5.4回

※現在の学校数は、小学校6校、中学校3校。(R2年度より現校数に)

※小学校の支援実施校数は、令和元年度は7校、その他の年度は6校。

※中学校の支援実施校数は、平成30年度および令和元年度は1校。

## ②中学生の読書離れ対策

第3次計画策定時に実施した小中学生向けのアンケート調査の結果において、中学生は小学生に比して普段本をほとんど読まない子どもが多かったことから、中学生の読書離れ対策を重点施策と位置づけました。

幅広い選択肢があることが読書のきっかけになるとの考えのもと、従前から対応している学級や図書室への団体貸出※12の他、個人貸出においても図書室に市立図書館から本を取寄せできる予約制度の導入や、中学生向けの本を紹介する図書館だよりを特別に発行するなど、各種取り組みを実施しました。

そうした取り組みを展開しながらも、次節の統計のとおり、コロナ禍を機に中学生の市立図書館の利用は一層減少し、回復の度合いも芳しくない状況にあります。市立図書館に比して、図書室の方は回復の度合いが良いことから、今後は、中学生については図書室に重点を置く施策展開がより効果的と考えられます。

## 2 現状と課題～市立図書館における統計から～

第3次計画策定年である平成30年度以降の5年間を対象に、各種実績の推移を確認するとともに、市立図書館利用の現状と課題を分析します。

①蔵書数

区分	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4
児童書総数	58,437冊	59,196冊	59,616冊	60,568冊	61,807冊

蔵書冊数については、この5年間で増加しました。第3次計画の施策の一つである児童書の充実について継続的に取り組んだ成果といえます。

②貸出数

区分	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4
0～18歳	74,234冊	60,499冊	42,744冊	54,649冊	61,694冊
児童書総数	121,423冊	101,722冊	75,862冊	91,599冊	105,384冊

③のべ利用人数(0～18歳)

区分	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4
総計	13,263人	10,014人	6,416人	8,235人	9,114人
0～6歳	3,199人	2,671人	1,864人	2,507人	2,676人
7～12歳	7,480人	5,443人	3,580人	4,406人	5,117人
13～15歳	1,668人	1,239人	568人	745人	701人
16～18歳	916人	661人	404人	577人	620人

④団体貸出※12冊数(小中学校および保育所、幼稚園等)

区分	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4
貸出冊数	6,527冊	3,986冊	1,853冊	1,805冊	3,020冊

しかしながら、上記②～④の貸出および利用に関する実績については、すべて減少しています。特に令和2年度の減少が顕著なことから、第1章の4で触れたとおりコロナ禍の影響とはいえ、長期休館や利用制限が続くなかで、利用の習慣が途切れた市民が多くなったと考えられます。

特に、コロナ禍になり、団体で校外へ出ることが控えられていた学校や保育所等の子ども関連施設への貸出が、市立図書館で団体での利用を制限したことも重なって著しく減少したこと、また、中学生の利用が令和2年度に減少したのちの回復の度合いが芳しくないことは大きな課題といえます。

ていれいぎやうじさんかしかしやすう  
⑤定例行事参加者数

※( )内は実施回数

ぎやうじ 行事	ねんど 年度	へいせい 平成30	れいわがん 令和元	れいわ 令和2	れいわ 令和3	れいわ 令和4
おはなし会※ <sup>10</sup>		(83)741人	(67)654人	(48)373人	(49)368人	(78)578人
にんぎやうげき 人形劇		(6)165人	(5)176人	(3)80人	(4)98人	(4)126人
えほん 絵本であそぼ		(6)119人	(5)86人	(1)10人	(3)36人	(6)68人

※絵本であそぼは保護者と乳幼児と一緒に参加できる行事。実施回数および参加者数は、同種の行事である絵本のひろばとの合計数。

ぎやうじさんかしかしや  
行事参加者についても、かしたしりやうかん  
貸出や利用に関する実績と同じく減少しています。特に、ぎやうじ  
中止期間や人数制限があった令和2～3年度については顕著となっています。いずれの  
ちゆうしきかん  
中止期間や人数制限があった令和2～3年度については顕著となっています。いずれの  
ぎやうじ  
行事も、しりつとしかん  
市立図書館と小さな子どもを結ぶ重要な取り組みであることから、参加人数の  
げんしやう  
減少は大きな課題であり、いっそうせきよくてき  
一層積極的なPRを行うなどの対策が必要と考えます。

こんご  
今後も、市立図書館の利用や行事参加の状況改善に努めつつも、利用の回復には  
じかん  
時間がかかることが想定されるため、その間、特に利用の回復度合いが芳しくない就学  
いこう  
以降の子どもへの施策に関しては、子どもたちの最も身近な図書施設である学校の  
としよしつ  
図書室での取り組みが一層重要になると考えられます。

げんじやう  
3 現状と課題～アンケート調査結果から～

ほんし  
本市の子ども読書活動の現状と課題を把握するため、乳幼児の保護者と小中学生  
たいしやう  
を対象にアンケート調査を実施しました。(結果を巻末に資料として添付)

◇アンケート実施期間：令和5年1月17日～同年1月31日

◇対象：市内子ども関連施設に通う乳幼児(0～6歳児)の保護者、四條畷市立  
しょうがっこう  
小学校3年生および5年生、四條畷市立中学校1年生および3年生

※市内子ども関連施設は、児童発達支援センター※<sup>13</sup>、岡部保育所、おおぞらこども園

※各項目の%は、小数点以下を四捨五入しています。そのため、各項目の%の合計が  
100%とならない場合があります

ほごしや  
(1) 保護者のアンケート調査結果

ブックスタート※<sup>8</sup>等の取り組みが浸透している成果か、多くの保護者が読み聞かせを行  
っている結果となりました。しかしながら、第3次計画策定時のアンケート結果(以下、  
「前回結果」という。)と比較すると、読み聞かせが習慣化(週1～2回以上とする)してい  
る割合は減少しています。

＜質問＞お子さんと一緒に本を見たり読んだりする機会はどのくらいありますか

時期	頻度	ほとんど毎日	週1～2回	月1～2回	ほとんどない
前回結果		40%	41%	12%	8%
今回結果		33%	28%	20%	19%

読み聞かせは、子どもにとって本との最初の出会いであり、本が好きになるかどうかの重要な要因となるものですので、習慣化の割合が増えるよう、保護者に根づかせる取り組みが必要となります。

＜第4次計画での施策設定にあたっての留意点＞

アンケート結果から、読み聞かせが習慣化していない保護者は、市立図書館を利用していない割合が高くなっています。読み聞かせ普及のためのPRには、保護者が集まる場所へ出向くことや、市立図書館利用の習慣のない保護者も参加してもらえるような行事等の取り組みが必要となります。

＜質問＞市立図書館はどのくらい利用されますか

区分	頻度	2週に1回	月1回	半年に2～3回	ほとんど無し
回答の総計		19%	10%	17%	54%
読み聞かせ月2回未満の層		3%	8%	14%	75%

(2) 小学生のアンケート調査結果

前回結果と比して、読書は好きですかとの質問に肯定的に回答する児童が少しですが増加しています。また、5年生は習慣的に図書室を利用する割合が増加しており、学校図書館支援員※11の配置など、平成27年度から段階的に進めてきた図書室活性化の取り組みが根づいてきたことが伺えます。

＜質問＞読書は好きですか

時期	回答	最肯定	肯定	中間	否定	最否定
前回結果		55%	17%	23%	3%	3%
今回結果		46%	30%	15%	5%	5%

しかしながら、読書は「好き」であると最肯定の回答をする割合は、3年生と5年生ともに微減しているとともに、ひと月の間に本を「ほとんど読まない」と回答する不読者の割合

の増加が顕著になっています。

また、本が好きと肯定的に答えた児童でも、細かく見ると、最肯定の児童は、「ひと月に10冊以上読む」割合が310人中116人と1/3以上を占めるのに対し、「どちらかという」と好きと答えた児童は、「ひと月に10冊以上読む」人数が198人中18人と1/10に満たない結果となっています。その一方で、「どちらかという」と好きと答えながらも「ほとんど読まない」と答えた人数は27人で、18人を上回っている実態であるとともに、「ひと月に10冊以上読む」に「6冊以上読む」の児童を加えても49人であり、「1冊以下しか読まない」65人より少ないという実態も踏まえると、肯定的な回答をしている児童も不読者の予備軍であると考えられ、読書が好きと肯定的に回答する児童が増加したとはいえ、安心はできない結果といえます。

#### <第4次計画での施策設定にあたっての留意点>

アンケートの質問(6)「読書以外で好きなことは」の回答を見ると、「ゲーム」と回答する割合が他の回答と比して顕著な値で1位になっています。特に、「読書が嫌い」と答えた児童は9割以上がゲームが好きと答えており、家庭でゲームに時間を充てる傾向が大きいと思われませんが、読書が嫌いな理由として、「文章を読むのが苦手」よりも「めんどろ」との回答が多くなっています。文章を読むのが苦手な児童には、根本的な対策が必要となりますが、めんどろだから読まない児童の場合は、一度でも読書は楽しいという経験があれば、読書へ目が向くようになる可能性があると考えられます。

また、3年生については、「読書が好き」と肯定的回答をする割合が前回結果よりも増加している一方、図書室利用が習慣化している児童(週のうち1回以上の利用とする)の割合は減少しています。この結果は、アンケート調査実施時の3年生は入学時からコロナ禍のため休み時間の図書室利用に制限があったことが原因の一つと考えられます。アンケート調査実施時に3年生以下であった児童には、特に図書室利用が習慣化につながるような取り組みが必要となります。

以上を総合すると、今後は、今まで以上に個々の読書習熟度に対応できる、幅広い環境づくりに努めるとともに、図書室活用を始めとする学校における読書推進の取り組みが家庭での読書活動に連動するような対策が必要と考えます。

#### <質問>読書は好きですか(3年生)

時期	回答	最肯定	肯定	中間	否定	最否定
前回結果		56%	15%	25%	2%	3%
今回結果		51%	30%	10%	4%	5%

### (3) 中学生のアンケート調査結果

中学生の読書離れが課題のなか、「読書が好き」と肯定的回答の割合に減少は見られなかったうえ、「ひと月に10冊以上読む」生徒も減少は見られませんでした。また、「週に3回以上図書室を利用する」生徒は、前回結果から倍増しました。この結果は、第3次計画期間中に、学校図書館支援員※11の中学校への全校配置が完了し、コロナ禍で制限などがあったものの、読書環境が向上した成果と考えられます。

#### <各種質問の回答結果比較>

時期	回答	読書が好き肯定以上	ひと月に10冊以上読む	週3回以上図書室利用
前回		56%	7%	4%
今回		58%	8%	8%

時期	回答	ひと月に読む冊数		読書は好きですか	
		2~5冊	ほとんど読まない	どちらかという嫌い	嫌い
前回		34%	24%	8%	8%
今回		26%	32%	6%	10%

(参考)「1か月間で読んだ本の冊数がゼロ冊」の中学生の割合：全国18.6% (全国学校図書館協議会「学校読書調査」の令和4年統計より。調査対象は1~3年生)

しかしながら、ひと月に2~5冊を読む生徒の割合が減少し、ほとんど読まない不読者といえる生徒の割合が増加するとともに、「読書は好きですか」との質問に、嫌いと回答する生徒の割合が若干ですが増加しています。

以上の結果をまとめると、読書環境が整備されてもともとよく読む生徒はさらに読むようになる一方で、ある程度読む中間層の生徒が不読へ移行していていると考えられます。

#### <第4次計画での施策設定にあたっての留意点>

アンケートにおいて、「読書以外で好きなことは」の回答を見ると、小学生と同様に「ゲーム」と回答する割合が顕著な値で1位になっています。「読書は好きですか」のアンケート結果も小学生と似た結果であることから、中学生に対しても小学生と同様の対策が必要と考えます。

また、読む本を選ぶ時に参考にするものにメディアをあげる生徒の割合が前回結果

と比して顕著に増加しています。中学生へのアプローチとして、Web サイトやSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）※3を活用したPR方法の強化が有効と考えられます。

## 用語解説

### ※8) ブックスタート

平成4年（1992年）、英国のバーミンガムで始まった、「絵本を開く楽しいひとときを赤ちゃんと分かちあおう（share books）」という運動。日本では同12年（2000年）の「子ども読書年※1」を機に始められ、地域で生まれたすべての乳児に0歳児健診等を利用して、取組みの趣旨を伝えながら絵本をわたす形式が多い。四條畷市では、保健センターと図書館が連携して、同19年（2003年）4月より行っている。

### ※9) ヤングアダルト（YA）

英語圏において、児童文学と文学一般の間に設けられたカテゴリー。年齢層としては思春期から成人後間もない層を想定している。YAは、ヤングアダルトの英語表記「Young Adult」の略である。

### ※10) おはなし会

複数の子どもたちに、おはなし※17を語ったり、絵本や紙芝居を読んで聞かせること。おはなし会の内容は対象の年齢や人数、場所によって異なり、パネルシアターやてあそび等を取り入れてプログラムを組むこともある。

### ※11) 学校図書館支援員

市立図書館が学校の図書室へ派遣のもと、図書の時間のサポートや休み時間の開室等、図書室の管理、運営の支援を行う職員。

### ※12) 団体貸出

図書館が地域の子どもの文庫や学校、保育所、PTA、事業所等の団体・グループに、図書館資料をまとめて貸出すること、また、その方法をいう。

### ※13) 児童発達支援センター

子どもの発達について、気になることや心配ごとなどを相談できる窓口を設ける市の施設。相談内容に応じて、専門スタッフが連携して、子どもの成長を支援する。

### 第3章 本市第4次計画の施策の方向性

#### 1 読書活動の推進に関連する最近の国の動向

本市の子ども読書活動推進計画は、第1章で確認したとおり、国および大阪府の策定する計画と整合および連動する位置づけとなっていることから、本市のこれまでの成果や課題を踏まえるとともに、読書関連施策に関する国の動向や、国および大阪府の最新計画の方向性をも捉えたものとして策定する必要があります。

本市が第3次計画の策定作業を行った平成30年度以降の国の主な動向をみると、まず平成30年10月の総合教育政策局の設置があげられます。これは、従前の生涯学習政策局と初等中等教育局、高等教育局を再編するものであり、学校教育と社会教育を通じた教育政策全体を総合的、横断的に推進することを趣旨とする動きです。

そして、その翌年の4月には、総合教育政策局内の地域学習推進課に図書館・学校図書館振興室が設置されるとともに、令和4年度予算においては、それまでの学校図書館総合推進事業と子どもの読書活動の推進事業が統合され、読書活動総合推進事業が増額のもと新設されました。従前より、学校図書館機能の充実に注力する動きはありましたが、今後は公共図書館との連携をさらに進め、公共図書館と一体となった読書推進を図ろうとする考えが伺えます。

また、令和元年6月には、読書バリアフリー法<sup>※14</sup>が成立しました。日本語、また通常の形態や文字の大きさでは読書が困難な人にとって、より読書しやすい環境を整備することを趣旨とするものであり、国が人にとって読書は大切なものであると考えていることが伺える動きと言えます。

また、同年同月には、学校教育の情報化の推進に関する法律が公布・施行されています。この法律は、高度情報通信ネットワーク社会の発展を見据え、学校においても情報通信技術を活用することを趣旨とするものであり、いわゆるGIGAスクール構想<sup>※5</sup>等につながるものですが、この動きに合わせ、令和4年に設置された「子どもの読書活動推進に関する有識者会議」では、読書とICT(情報通信技術)のベストミックスが検討事項にあげられました。

#### <本市第3次計画策定以降の主な国の動向>

- 平成30年10月 総合教育政策局の設置
- 平成31年4月 総合教育政策局地域学習推進課に図書館・学校図書館振興室を設置
- 令和元年6月 読書バリアフリー法<sup>※14</sup>が成立、学校教育の情報化の推進に関する法律を公布・施行

## 2 国の最新計画について

子どもの健全な成長に資することを趣旨に、子どもの読書活動に関する施策を総合的かつ計画的に進めるため、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が公布されました。この法律を受け、国は、同14年8月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（第一次）を策定し、その後、おおむね5年ごとに計画の見直しが行われ、令和5年には第五次計画が策定されています。

第五次計画の基本方針においては、第四次計画に引き続き不読率<sup>※15</sup>の低減をあげた他、情報化の推進を踏まえたデジタル社会への対応や、学校図書館に関する記載において、第四次計画までの環境整備を重視した内容から、具体的な取組みに触れる内容へと変化が見られるなど、継続課題の解消のみならず、新しい課題への対応をも図る、幅広い内容になっています。

### <国の第五次計画の基本方針>

- ① 不読率<sup>※15</sup>の低減（就学前からの読み聞かせ等の促進、大人を含めた読書計画の策定等）
- ② 多様な子どもたちの読書機会の確保（多様な子どもの可能性を引き出すための読書環境を整備）
- ③ デジタル社会に対応した読書環境の整備（GIGAスクール構想<sup>※5</sup>等の進展等を踏まえる）
- ④ 子どもの視点に立った読書活動の推進（子どもの意見聴取の機会を確保し、取組みに反映）

## 3 大阪府の最新計画について

大阪府では、国が平成14年に初めて子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画を策定すると、翌年には子どもの読書活動推進計画（第1次）を策定しました。その後、国と同様におおむね5年ごとに見直しを行い、現在では令和3年3月に策定された第4次計画が最新のものとなっています。

第4次計画では、第3次計画で初めて触れた子どもの発達に応じた読書環境づくりをさらに進め、発達段階ごとの特徴をさらに考慮した取組み内容を掲げています。

また、国の第五次計画の基本方針と同様に、引き続き不読率<sup>※15</sup>の改善に向けた取組みがあげられています。

おおさか ふ だい じ けい かく してん  
<大阪府の第4次計画の視点>

- |  |
|--|
| 1 発達段階に沿った読書活動推進   |
| 2 読書活動ができていない(読書のために時間を割かない、興味を持てるような本がない、本を読むのが面倒)子どもへの読書環境整備 |

き そ じ ち たい ほん し だい じ けい かく し さ く ほう こう せい  
4 基礎自治体としての本市第4次計画における施策の方向性

だい しょう かく にん ほん し げん じ ゃう か だ い ほん し ゃう かく にん くに どう こう くに  
第2章で確認した本市の現状と課題、そして本章1～3で確認した国の動向、また国お  
よび大阪府の最新計画を踏まえ、本市第4次計画の施策の展開にあたっては、次のとお  
り方向性を定めます。

ふ どり つ かい ぜん ※15  
① 不読率<sup>※15</sup>の改善

だい しょう かく にん ふ どり しゃ ぞう か ほん し ち ゃく めん か だ い ほん し ゃう  
第2章の3で確認したとおり不読者の増加は本市の直面する課題です。本章の2およ  
び3で確認したとおり、国および大阪府の最新計画においても不読率<sup>※15</sup>の改善が課題  
であることがあげられており、全国的な傾向でもあることから、第4次計画の方向性に定  
めます。

は っ た つ だ ん かい お う と り く  
② 発達段階に応じた取組み

だい しょう かく にん よ き し ゅ う かん か て い げん し ゃう よ  
第2章の3で確認したとおり読み聞かせを習慣にしている家庭が減少しています。読み  
聞かせは、子どもにとって、本と親しむための極めて重要な機会であることから、読み聞か  
せを習慣にしている家庭の減少は大きな課題といえます。

この状況に鑑み、読み聞かせの普及に関しては、これまでの計画においても注力してき  
ましたが、各家庭で読み聞かせが継続的に行われ、本と触れ合うことが習慣となるには、  
各部署との連携を一層強め、今まで以上にきめ細かな取組みの展開が必要と考え、こ  
れまで主に所管ごとに記載していた推進のための施策を、発達段階ごとの構成にあらた  
め、施策のより効果的な実施を図ります。

と し ゃ かん が っ こ う き ゃ う い く ぶ も ん れん けい き ゃ う か  
③ 図書館と学校教育部門の連携の強化

ほん し だい じ けい かく し り つ と し ゃ かん が っ こ う と し ゃ かん し え ん し ゅ う  
本市では、第2次計画で市立図書館による学校図書館支援を主要プロジェクトとして  
位置づけて以降、学校と市立図書館の連携に関しては注力してきたところですが、本章  
の1で確認したとおり、国において社会教育部門と学校教育部門の一体化がすすめられ  
ています。また、本市において、第2章の2で確認したとおり、子どもたちの市立図書館  
利用が減少している実態を踏まえると、当面は小中学生たちの最も身近な図書施設で  
ある学校図書館での取組みが一層重要になると考えられます。

こうした状況を踏まえ、第4次計画においては、国の動向のとおり、本市計画の事務局である図書館(社会教育部門)と学校図書館管理担当部署(学校教育部門)の連携に関し、より一層の強化を図ります。

#### ④ 子どもの視点に立った取り組み

本章の2で確認したとおり、国の最新計画において、子どもの視点を取り入れることの重要性があげられています。

第2章の3であげたアンケート調査結果において、「読書が嫌い」と答えた児童の嫌いな理由として、「文章を読むのが苦手」よりも「めんどろ」との回答が多くなっています。

「めんどろ」という理由で「読書が嫌い」な場合は、自身の興味関心や読書習熟度に合っていない本を読んだ経験の積み重ねが要因の一つになっていると考えられます。

自身に合った本に出会え、読書は楽しいと思える経験が重なれば、読書がより身近で大切なものに感じられるようになると考えられるので、子どもたち一人ひとりの興味関心や読書習熟度に対応できる、幅広い環境づくりが重要となります。

また、中学生においては、読む本を選ぶ時に参考にするものにメディアをあげる生徒の割合が第3次計画策定時のアンケート調査結果と比して顕著に増加しています。こうした、年齢ごとの興味の変化をうまく施策の展開に取り入れていくことが重要と考えられます。

これらアンケート調査結果から分析できる内容を踏まえ、国の最新計画があげるとおり、施策の展開にあたっては、今まで以上に子どもの視点に立つことが必要と考え、方向性として定めます。

#### ⑤ 多様な子どもへの対応

第1章の4で記載したとおり、この5年間でSDGs※7の考え方が普及してきました。また、読書に関する動きでは、読書バリアフリー法※14が令和元年6月に施行されました。こうした動きを背景に、国の最新計画では、多様な子どもへの対応が基本方針としてあげられました。本市のこれまでの計画においても、外国にルーツがある子どもや、障がいのある子どもへの取り組みは行ってきましたが、以上のような動向を踏まえ、第4次計画においては多様な子どもへの対応を方向性として定めます。

## 5 成果指標と重点施策

### (1) 成果指標

前節において、第4次計画における方向性として、第1に不読率※15の改善をあげました。読書活動の推進の観点からは最も重要な事項と認識します。第2章の3で示したアンケ

一調査において、読書が好きと答えた子どもは、否定的回答をした子どもと比して、不読率※15の割合が低いという結果がみられます。不読率※15の改善には、まず読書が好きになることが重要と考え、読書好きの割合を増加させることを目標とし、成果指標として設定します。

また、第2章の3で示したアンケート調査結果においては、小さい頃に読み聞かせをよくしてもらった経験がある子どもは、他の子どもと比して、「読書が好きか」との質問に肯定的回答をした割合が高くなっていると同時に、不読率※15の割合も低くなっています。この結果から、不読率※15の改善には、小さい頃の読み聞かせの経験は非常に重要と考え、読み聞かせを習慣にしている家庭の割合を増加させることも合わせて成果指標とします。

### ＜成果指標＞

① 読書が好きと肯定的に回答した子どもの割合	(参考値) 小学生:75.7% 中学生:58.2%
② 読み聞かせを習慣にしている(週1~2回以上とする)家庭の割合	61% (PI0最上部の表より)

※①は教育委員会でを行っているアンケート調査「児童生徒教職員アンケート」の項目を成果指標として活用。(当該項目の調査実施は令和6年度から)

※①の参考値は第2章の3で示したアンケート調査の結果より

※②の数値については、第5次計画策定時にアンケート調査を実施のうえ比較する。

## (2) 重点施策

本節(1)で読み聞かせを習慣にしている家庭の割合の増加を成果指標としましたが、第2章の3で示したとおり、その割合は第3次計画策定時よりも減少しています。この結果から、成果指標の達成には、まず減少した数値を回復させることが最重要と考え、読み聞かせの普及に向けた取組みを重点施策とします。

また、おおむね一人で読書ができるようになる就学以降については、第2章の2で確認したとおり、市立図書館の利用が減少している現状においては、子どもたちの最も身近な図書施設である学校の図書室での取組みが一層重要になると考えられることから、前節で第4次計画の方向性としたことも踏まえ、学校の図書室における取組みの強化を重点施策とします。

なお、重点施策の展開にあたっては、先にあげた各方向性を踏まえ、「発達段階の特性にあわせるとともに、子どもたち個々の視点に立った取組み」に努めます。

はったつだんかい 発達段階	じゅうてんしさく 重点施策
しゅうがくぜん 就学前の子どもたち	よきふきゅう 読み聞かせの普及
しゅうがくご 就学後の子どもたち	がっこうとしょかん 学校図書館における取組みの強化

※推進のための施策を発達段階ごとの構成とすることから、発達段階ごとに重点施策を設定します。

ようごかいせつ  
用語解説

※14) 読書バリアフリー法

令和元年(2019年)6月に成立した、障がいの有無に関わらず、すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるようにするための法律。正式名称は「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」。

※15) 不読率

1か月の間に1冊も本を読まなかった者の対象集団内の割合。

## 1 就学前の子どもたちへの施策

### (1) 各発達段階における特性

#### ①0～2歳期

0～2歳の時期は、文字が読めませんが、読書活動の観点において非常に重要です。まず、読書の土台となる言葉を覚えていく時期であり、話しかけられることにより、言葉のリズムやアクセントなどを覚え、やがて意味があるものと気づいていきます。そして、それぞれの言葉の使われる場面の規則性を記憶し、物の概念や動詞のイメージを覚えていきます※A。

言葉を覚えるこの過程において、絵本の読み聞かせは効果的です。より多くの言葉のリズムやアクセントが身につくとともに、この時期の日常生活においては出会うことのない物や、あまり使われない動詞などに触れることができ、いろいろな物や動詞のイメージを得ることができるからです。さらに、書き言葉に触れることもでき、このうち保育所や幼稚園でいろいろなことを習う際に役立つこととなります※B。

また、この時期の読み聞かせは、言葉の発達への効果にとどまらず、心の面への効果も期待できます。絵本を介した保護者との触れ合いは、保護者と子ども、共に情緒的安定が得られ、互いの絆が深まるとともに、社会性や自己肯定感の育みへとつながります※C。そして、何よりも、本を介して保護者と一緒に楽しいひとときを過ごすことは、本へのプラスのイメージの醸成となり、本好きへとつながることも期待できます※D。

この時期の読み聞かせは、言葉の発達の効果と合わせ、心の面への効果についてもPRに努め、まず楽しいひとときを分かちあうことが重要であり、普段のコミュニケーションの延長程度に考え、気軽にできるものであることを周知することが大切といえます。

#### ②3～6歳期

子どもは、一般的に3歳頃までにある程度の語彙と文法を習得し、その後、それをもとに国語力の土台を形成していきます※E。この言語獲得の敏感期※Fは12歳頃まで続き、特に5～6歳がピークといわれています※G。

このピーク時を含めた前後の時期に絵本の読み聞かせを習慣的に行うと効果的です。語彙力が急上昇する時期なので、絵本でいろいろなストーリーに出会い、いろいろな言葉や場面に触れると、国語力が質・量ともに充実していきます。

生活のなかの会話だけでも多くの言葉を吸収していく時期ですが、このうち、就学後に

本格的な読み書き学習が始まることを考えると、絵本で整った書き言葉に多く触れておくことは、非常に重要といえます※H。

(2) 重点施策：読み聞かせの普及

※所管欄の表記説明

子育て…子育て総合支援センター※21 児童セ…児童発達支援センター※13

保育所…市立保育所 こども園…市立こども園 文公振…文化・公民館振興課

図書館…市立図書館

施策・事業	取り組み内容	所管	0～ 2歳	3～ 6歳
職員による読み聞かせの実施	子どもの年齢や興味などを考慮のうえ、読み聞かせを実施する。	児童セ 保育所 こども園	○	○
ファンフレンドプログラム※16	4、5歳児にファンフレンドプログラム※16を行い、子どもの豊かな心を育む絵本を読み聞かせる。	保育所 こども園		○
行事開催	絵本やおはなし(素語り)※17の魅力を知するため、おはなし会※10を定期的で開催する。	図書館		○
関係機関等との連携、協力	市立図書館と市内子ども関連施設が連携、協力のもと、絵本の読み聞かせやおはなし(素語り)※17を実施する。	児童セ 保育所 こども園 図書館	○	○
ボランティアとの連携	ボランティアと連携のもと、絵本の読み聞かせやおはなし(素語り)※17を実施する。	保育所 こども園 図書館	○	○
保護者、子どもへのアプローチ	地域への室内開放等で、参加者に読み聞かせの楽しさや大切さを伝える。	保育所 こども園	○	○
	子どもに読み聞かせをした絵本が保護者にわかるように、各クラスの部屋の前に読み聞かせした絵本を設置する。	保育所 こども園	○	○

しきく じぎょう 施策・事業	とりく ないよう 取組み内容	しょかん 所管	0～ さい 2歳	3～ さい 6歳
ほごしゃ、こども へのアプローチ	にゅうようじむ ぎょうじ じっし よき 乳幼児向けの行事を実施し、読み聞かせの みりよく ほごしゃ つた 魅力を保護者に伝える。	としょかん 図書館	○	
	かんないじどうしょ ほん なら 館内児童書コーナーに保護者向けの読み聞 かせを勧める本を並べたコーナーを設ける。	としょかん 図書館	○	○
	ちいき のサロンやサークルに出向いて、絵本の よき 読み聞かせを実施する。(出前講座)	ほいくしよ 保育所 こども園	○	○
	よき 読み聞かせの魅力や効果の周知およびPR しゆし ほごしゃ おこな を趣旨に、保護者向けに出前講座を行う。	としょかん 図書館	○	○

### (3) その他の施策

しきく じぎょう 施策・事業	とりく ないよう 取組み内容	しょかん 所管	0～ さい 2歳	3～ さい 6歳
ほん ふ あ 本と触れ合う ば かんきょうせいび 場の環境整備	ほいくしつない えほん 保育室内に絵本コーナーを設置する。	こそだて 子育て じどう 児童セ ほいくしよ 保育所 こども園	○	○
	きょういくぶんか どう ほん 教育文化センター等において、子どもの本を もう じどうしつ かいほう 設けた児童室を開放する。	ぶんこうしん 文公振	○	○
	えほん 絵本コーナーにおいて、絵本の表紙を見せる めんてんじ おこな こ きょうみ も 面展示を行うなど、子どもが興味を持ちやす くふう おこな い工夫を行う。	じどう 児童セ ほいくしよ 保育所	○	○
	きそん しせつ しな い ほん せっち 既存の施設のほか、市内において本が設置 ばしよ かくほ りよう きょう できる場所を確保し、利用に供する。	としょかん 図書館	○	○
ほん かしだ 本の貸出し	かてい ほん ふ あ うなが えほん 家庭での本との触れ合いを促すため、絵本 いくじしよ かしだし じっし や育児書の貸出を実施する。	こそだて 子育て	○	○
そうしよ じゅうじつ 蔵書の充実、 せいび 整備	こ ねんれい きょうみ あ ほん 子どもたちの年齢や興味に合わせて本を せんたく せんとく ぞうしよ じゅうじつ ほか 選択できるように蔵書の充実を図る。	こそだて 子育て じどう 児童セ ほいくしよ 保育所 こども園 としょかん 図書館	○	○

しきく じぎょう 施策・事業	とりく ないよう 取り組み内容	しょかん 所管	0～ さい 2歳	3～ さい 6歳
ぞうしょ じゅうじつ 蔵書の充実、 せいび 整備	きせつ やテーマに合わせた入替えを行うなど、 えほん コーナーを定期的にチェックする機会を もち、じゅうじつ ほか 充実を図る。	じどう 児童セ ほいくしょ 保育所 こどもえん こども園	○	○
	しょか みりょく いじ しんかんとしょ 書架の魅力を維持するため、新刊図書 けいぞくてきこうにゆう ほか しょぞうとしょ かい か おこな 継続的購入の他、所蔵図書の買替えを行う など、けいかくてきこうにゆう つと 計画的購入に努める。	と しょかん 図書館	○	○
	ほんえら 本選のサポートを趣旨に、おすすめ本やテ まにそ ほん てんじ おこな ーマに沿った本の展示を行う。	と しょかん 図書館	○	○
れんけい 連携による とりく 取り組み	こ どもたちが本と出会う機会の場の創出を しゅし しりつ こ かんれんしせつ れんけい 趣旨に、市立の子ども関連施設が連携、 きょうりょく ぎょうじとう おこな 協力のもと、行事等を行う。 れい 例) スタンプラリー	こ そだて 子育て ぶんこうしん 文公振 と しょかん 図書館	○	○
	ほけん センターと連携のもと、4か月児健診の さい あか えほん ぞうてい 際、赤ちゃんに絵本を贈呈する。(ブックスタ ート※8)	と しょかん 図書館	○	
	しりつ と しょかん だんたいかしたしせいど かつよう 市立図書館の団体貸出制度を活用のもと、 かんれんしせつ どくしょかんきょう こうじょう ほか 関連施設の読書環境の向上を図る。	ほいくしょ 保育所 こどもえん こども園 と しょかん 図書館	○	○
	しな い こ かんれんしせつ どくしょかんきょうこうじょう 市内子ども関連施設の読書環境向上を しゅし と しょかん しょう ほん しな い 趣旨に、図書館で生じたりサイクル本の市内 こ ども かんれんしせつ ゆうせんてきじょうと かつよう つと 子ども関連施設への優先的譲渡と活用 に努める。	じどう 児童セ ほいくしょ 保育所 こどもえん こども園 ぶんこうしん 文公振 と しょかん 図書館	○	○
	ボランティアに対して、かつどう ば じょうほう 活動の場や情報の ていきょう だんたいむ かしたし おこな かつどう 提供、また団体向け貸出を行い、活動 しえん を支援する。	と しょかん 図書館	○	○
ぎょうじ かいさい 行事の開催	ちいき ぎょうじ えほん ないよう と い 地域の行事にて絵本の内容を取り入れたエ プロンシアター※18やおはなしの劇を行う。	ほいくしょ 保育所 こどもえん こども園	○	○

しざく じぎょう 施策・事業	とりく ないよう 取組み内容	しょかん 所管	0～ さい 2歳	3～ さい 6歳
ぎょうじ かいさい 行事の開催	こどもたちの図書館来館の機会を創出するため、おはなし会※10以外にも各種行事を開催する。	と しょかん 図書館	○	○
	にゅうようじ ほん としょかん むす しゅし 乳幼児を本や図書館と結ぶことを趣旨に、にゅうようじむ ぎょうじ かいさい 乳幼児向けの行事を開催する。	と しょかん 図書館	○	
どくしょしどう 読書指導	みちか どうしょくぶつとう しら はっけん 身近な動植物等について、調べたり発見したりといった、子どもの好奇心や探求心を満たす図鑑、絵本を設置のもと、子どもが自ら学ぶ機会を設ける。	じどう 児童セ ほいくしょ 保育所 こども園	○	○
	ほん たいせつ 本を大切にすることを子どもに理解させ、そのとりあつかい しどう 取扱いを指導する。	じどう 児童セ ほいくしょ 保育所 こども園	○	○
	ほごしゃ こそだ さんこう ほん かだし おこな 保護者に子育てに参考となる本の貸出を行う。	ほいくしょ 保育所 こども園	○	○
ほごしゃ こ 保護者、子ども へのアプローチ	ほごしゃ ひろば じょうほうていきょう つう 保護者におはなし広場などの情報提供を通じ、どくしょ 読書についての興味喚起を図る。	こそだて 子育て	○	○
	ほごしゃ じょうほうていきょう つう どくしょ 保護者に情報提供を通じ、読書についてのきょうみかんき はか 興味喚起を図る。	ほいくしょ 保育所 こども園	○	○
	こどもやほごしゃ ほん であ 子どもや保護者の本との出会いのサポートを しゅし せっきよくてき つと 趣旨に積極的フロアワーク※19に努める。	と しょかん 図書館	○	○
	としょかんりよう しゅうかん ほごしゃ さんか 図書館利用の習慣のない保護者の参加も うなが どりく くふう 促せるように取組みを工夫する。	と しょかん 図書館	○	○
PR	としょかんりよう そくしん しゅし しこうほう 図書館利用の促進を趣旨に、市広報や Web サイト、また市SNS※3を活用のもと、 ぎょうじ どくしょじょうほう しゅうち つと 行事や読書情報の周知、PRに努める。	と しょかん 図書館	○	○
	こどもやほごしゃ ほん であ 子どもや保護者の本との出会いのサポートを しゅし さくせい はいふ 趣旨に、ブックリスト※20を作成のうえ配布に つと 努める。	と しょかん 図書館	○	○

(4) 多様な子どもへの施策

施策・事業	取り組み内容	所管	0～ 2歳	3～ 6歳
障がいのある 子どもへの 取り組み	子どもの個性への配慮に努め、興味に合わせた本選びを行う。	児童セ 保育所 こども園 図書館	○	○
	通常の図書での読書が困難な利用者向けに、障がいの特性に応じた各種資料の収集に努める。	図書館	○	○
外国にルーツ を持つ子ども への読書支援	「四條畷市にほんご教室」において、幼児に合った絵本を選び、随時読み聞かせを行う。	文公振	○	○
	外国語で書かれた図書の収集に努める。	図書館	○	○
	日本語での利用案内が困難な利用者向けに、外国語で書かれた利用案内を作成する。	図書館	○	○

2 就学後の子どもたちへの施策

(1) 各発達段階における特性

①小学生

小学生は、本格的に読み書きを習い始める時期であるとともに、言語獲得の敏感期が終了する時期であり、国語力の土台の形成において非常に重要な時期です。この時期にどれだけ本を読んだかは、その後の国語力に大きな影響を及ぼすといえるでしょう※I。

特に、10歳ごろまでに読書の習慣をつけ、一定量の書き言葉を読むことに慣れておくことは大切です※J。10歳ごろ、思考の方法が具体的な操作から形式的な操作に変化※Kするのに合わせて、教科書はもちろん、知識の本や読み物においても、内容が質・量ともにステップアップしますが、それまでに一定量の書き言葉の文章を読むことに慣れていないと、質・量のアップに対応できない可能性があるからです。低学年のうちはあまり目立たなかった読書力の差が、高学年になるにつれ顕著になりますが、その要因は、この質・量のアップによるところが大きいと考えられます。

小学生になって読み書きを習い、文法や難しい漢字を覚えても、それだけでは円滑に読書ができるようになるわけではなく※L、一定量の書き言葉の文章に触れる習慣が重要であることに留意する必要があります。

②中学生および中学校卒業～18歳（高校生等）

前述のように、言語獲得の敏感期は12歳頃で終了し、思春期以降は減退していきま  
 すが、一方で、12歳頃から脳の前頭前野の成長が顕著になり※M、思考力が発達します。  
 脳は、発達期に該当箇所を刺激すると発達がより促されるといわれており、この時期に  
 前頭前野を使う読書を習慣的に行えば、思考力の向上が期待できます※N。

思考力が発達すれば、多感でもあるこの時期は、教養の本から得られる知識、そして読  
 み物から得られる体験や感情を、プライベートや学校生活における種々の体験と重ね合わ  
 せて自身の中に位置づける力も期待でき、豊かな心、そして生きる力の醸成の観点から  
 も、中学生から18歳の時期にたくさんの本と出会うことは極めて重要と考えられます※O。

特に中学生の時期に関しては、大人になっても読書が好きであるかどうかは義務教育  
 段階までで決まるとの指摘もあり※P、生涯にわたり継続して読書を行うようになるかどう  
 かの分岐点ともいえることを合わせて考えると、中学生の時期にいかに本との出会いを  
 途切れさせないようにし、18歳までつなぐかに留意する必要があります。

(2) 重点施策：学校図書館（図書室）における取組みの強化

※所管欄の表記説明

教総課…教育総務課 教支セ…教育支援センター 小学校…市立小学校

中学校…市立中学校 ス青課…スポーツ・青少年課 文公振…文化・公民館

振興課 図書館…市立図書館

施策・事業	取組み内容	所管	小 がくせい 学生	中 がくせい 学生
積極的活用	子どもたちの読書習慣の定着及び図書室 利用の促進を図るため、授業等で利用する など、図書室の積極的な活用に努める。	小学校 中学校	○	○
	児童、生徒の図書室利用を習慣づけるた め、休み時間や昼休み等に開室し、自主的 な図書室利用を啓発する。 ※中学校は昼休みと放課後	小学校 中学校	○	○

しきく じぎょう 施策・事業	とりく ないよう 取組み内容	しょかん 所管	しょう 小 がくせい 学生	ちゅう 中 がくせい 学生
せつきよくてきかつよう 積極的活用	としよしつりよう そくしん ほか としよしつ ほん 図書室利用の促進を図るため、図書室の本 の貸出を行う。	しょうがっこう 小学校 ちゅうがっこう 中学校	○	○
じんてきはいち 人的配置	としよしつ かっせいか ほか がっこう しりつ 図書室の活性化を図るため、学校と市立 図書館が連携のもと、開室や蔵書管理等を 行う職員を配置するとともに、連携体制強化 のための情報交換に努める。	しょうがっこう 小学校 ちゅうがっこう 中学校 きょうし 教支セ と しょかん 図書館	○	○
	がっこうとしょかんととしよひょうじゆん※23 たっせい む 学校図書館図書標準※23の達成に向けて、 図書購入の予算確保に努め、各学校の蔵 書冊数の充実を図る。	きょうそう か 教総課	○	○
みりよくてき ぞうしょ 魅力的な蔵書 の構築	しら がくしゅう じゆうどくしょ たよう 調べ学習のみならず、自由読書などの多様 な利用に対応できるように、計画的に資料 購入を行い、幅広い蔵書構成となるよう努 める。	しょうがっこう 小学校 ちゅうがっこう 中学校	○	○
	じどう せいと しんぶん りよう きかい かくほ 児童、生徒が新聞を利用する機会確保のた め、全小中学校への複数紙の新聞の配備と 利用促進に努める。	きょうそう か 教総課 しょうがっこう 小学校 ちゅうがっこう 中学校	○	○
	しょか みりよくてき じょうたい い じ いた 書架の魅力的な状態を維持するため、傷ん だ本や記載内容が古くなった本の除籍や 買い替えに努め、定期的に蔵書の更新を行う。	しょうがっこう 小学校 ちゅうがっこう 中学校 と しょかん 図書館	○	○
かっせいか とりく 活性化の取組 み	かざり ほん てんじ 飾つけやおすすめ本の展示、またイベントな ど、図書室が魅力的に見えるような演出を 行う。	と しょかん 図書館	○	○
	としよしつ じゆうりよう そくしん しんちゃくほん 図書室の自由利用を促進するため、新着本 やおすすめの本の紹介等を載せた、図書室 だよりの発行に努める。	と しょかん 図書館	○	○
	こ どもたちの図書室への来室を促進するた め、図書委員(文化委員)が図書室で活動 する機会を設ける。	しょうがっこう 小学校 ちゅうがっこう 中学校	○	○

し さ く じ ぎ ょう 施策・事業	と り く な い ょう 取組み内容	し ょ か ん 所管	し ょ う 小 が く せ い 学 生	ち ゅ う 中 が く せ い 学 生
か っ せ い か 活性化の と り く 取 組 み	こ ども たち による 図 書 室 づ くり を 図 る た め、 と し ょ い い ん か い し ゅ っ せ き つ と い け ん こ う か ん 図書委員会への出席に努め、意見交換な ど を 行 う。	と し ょ か ん 図 書 館	○	○
	こ ども たち の 読 書 意 欲 の 向 上 を 図 る た め、 ニ ー ズ に 積 極 的 に 対 応 す べ く、 図 書 室 で せ っ き よ く て き た い お う と し ょ し つ 所蔵していない場合は、市立図書館から本 し ょ ぞ う ば あ い し り つ と し ょ か ん ほ ん を取り寄せる。	し ょ う が っ こ う 小 学 校 ち ゅ う が っ こ う 中 学 校 と し ょ か ん 図 書 館	○	○
し せ つ せ つ び 施設、設備の じ ゅ う じ つ 充 実	こ う しゃ だ い き ぼ か い ぞ う こ う じ と う あ 校舎の大規模改造工事等に合わせて、 ろ う き ゅ う か と し ょ し つ か い し ゅ う つ と 老朽化している図書室の改修に努めるとと も に、 本 棚、 机、 椅 子 な の 備 品 に つ い て も ほ ん だ な つ ぐ え い す び ひ ん 老朽化しているものは買替え等を行う。	き ょ う ぞ う か 教 総 課	○	○
ボ ラ ン テ ィ ア と れ ん け い き ょ う り ょ く の 連 携、 協 力	と し ょ し つ せ い び か っ せ い か し ゅ し 図書室の整備、活性化を趣旨に、ボランテ ィ ア の 受 入 れ に 努 め る。	し ょ う が っ こ う 小 学 校 ち ゅ う が っ こ う 中 学 校	○	○
	と し ょ し つ か っ せ い か し ゅ し が っ こ う う い 図書室の活性化を趣旨に、学校が受け入 れ た ボ ラ ン テ ィ ア と 連 携、 協 力 し て 実 現 可 能 れ ん け い き ょ う り ょ く じ つ げ ん か の う な 協 働 体 制 を 構 築 す る。	と し ょ か ん 図 書 館	○	○
う ん え い た い せ い 運 営 体 制 の き ょ う か 強 化	と し ょ し つ り か つ ょう か っ せ い か ほ か 図書室の利活用の活性化を図るため、 が っ こ う と し ょ か ん き ょ う ぎ かい と う か ん り ゅ う ン え い 学校図書館協議会等、管理運営について か く こ う か ん じ ょ う ほう こ う か ん お こ な ば も う 各校間で情報交換を行う場を設ける。	し ょ う が っ こ う 小 学 校 ち ゅ う が っ こ う 中 学 校 と し ょ か ん 図 書 館	○	○
	と し ょ し つ と し ょ か ん れ ん ら く じ ょ う ほう こ う か ん 図書室と図書館の連絡や情報交換、また ほ ん と り ょ え ん か つ か し ゅ し し り つ 本の取寄せの円滑化を趣旨に、市立 と し ょ か ん が っ こ う か ん じ ゅ ん かい び ん う ん こ う 図書館と学校間の巡回便を運行する。	と し ょ か ん 図 書 館	○	○

(3) その他の施策

し さ く じ ぎ ょう 施策・事業	と り く な い ょう 取組み内容	し ょ か ん 所管	し ょ う 小 が く せ い 学 生	ち ゅ う 中 が く せ い 学 生
ほ ん ぶ あ 本と触れ合う ば かん き ょ う せ い び 場の環境整備	こ ども たち が い つ つ も 読 書 で き る よ う に、 が っ き ゅ う ぶ ん こ が く ね ん ぶ ん こ せ っ ち つ と 学級文庫や学年文庫などの設置に努める。	し ょ う が っ こ う 小 学 校	○	

しきく じぎょう 施策・事業	とりく ないよう 取り組み内容	しょかん 所管	しょう 小 がくせい 学生	ちゅう 中 がくせい 学生
ほん ふ あ 本と触れ合う 場の環境整備	ほん ふ あ きかい そうしゅつ 本と触れ合う機会の創出として、ふれあい きょうしつ ほん はいび 教室に本を配備する。	せい か ス青課	○	
	きょういふんか どう 教育文化センター等において、子どもの本を せっち じどうしつ かいほう 設置した児童室を開放する。	ぶんこうしん 文公振	○	
	きそん しせつ しな い ほん せっち 既存の施設のほか、市内において本が設置 ばしょ かくほ りよう きょう できる場所を確保し、利用に供する。	と しょかん 図書館	○	○
ぞうしょ じゅうじつ 蔵書の充実、 せいび 整備	しょうがくせい さい はばひろ ねんれい きょうみ 小学生から18歳まで幅広く、年齢や興味、ま どくしよしゅうじゅくど あ ほん えら た読書習熟度に合った本を選ぶように、子 ども してん た ぞうしょ じゅうじつ ほか どもの視点に立った蔵書の充実を図る。 こうこうせいどう たいしやう (高校生等も対象)	と しょかん 図書館	○	○
	しょか みりよく い じ しんかんとしよ 書架の魅力を維持するため、新刊図書 けいぞくてきこうにゆう ほか しょぞうとしよ かい か おこな 継続的購入の他、所蔵図書の買替えを行う など、けいかくてきこうにゆう つと 計画的購入に努める。	と しょかん 図書館	○	○
ほん きょうみ 本への興味 かんき 喚起のための とりく 取り組み	ほんえら 本選びのサポートを趣旨に、おすすめ本やテ ーマに沿った本の展示を行う。	と しょかん 図書館	○	○
	ちゅうがくせいじやう ねんだい ほんえら 中学生以上の年代の本選びのサポートを しゅし ねんれい あ ほん あつ 趣旨に、年齢に合わせた本を集めたコーナー をせっち ころこうせいどう たいしやう 設置する。(高校生等も対象)	と しょかん 図書館		○
	じかん め かいしまえ じかん かつよう ぞくしよ 1時間目開始前の時間を活用のもと、読書 じかん かくほ つと の時間の確保に努める。	しょうがっこう 小学校 ちゅうがっこう 中学校	○	○
	せいしやうねんぞくしよかんそうぶん さんか む 青少年読書感想文コンクールへの参加に向 けて、ぞくしよかんそうぶん と く 読書感想文に取り組む。	しょうがっこう 小学校 ちゅうがっこう 中学校	○	○
	ぞくしよ かんしん たか ぞくしよかんそうぶん 読書への関心を高めるため、読書感想文の ほか、かんそうが ほん おび どう ぞくしよかんれん ほか、感想画、本の帯づくり等、読書関連コ ンクールへの参加促進に努める。	しょうがっこう 小学校	○	
	じどう ぞくしよいよく こうじやう ほか ぞくしよ 児童の読書意欲の向上を図るため、読書ノ ートやカードの活用を努める。	しょうがっこう 小学校	○	
	ほん した ほん しゅし おおむ しゅう じかん 本に親しむことを趣旨に、概ね週1時間の ぞくしよしどう おこな 読書指導を行う。	しょうがっこう 小学校	○	

しきくじぎょう 施策・事業	とりく ないよう 取り組み内容	しょかん 所管	しょう 小 がくせい 学生	ちゅう 中 がくせい 学生
ほん きょうみ 本への興味 かんき 喚起のための とりく 取り組み	としょ じかん ※22 どう かつよう おもしろ おも ほん 図書の時間等を活用し、面白いと思う本 を児童同士で勧め合う機会を設ける。	しょうがっこう 小学校	○	
	ほん せつ きかい そうしゅつ ほか ぼうか ご こ 本と接する機会の創出を図り、放課後子ども 教室で絵本の読み聞かせを実施する。	せい か ス青課	○	
	こ どもたち としょかんらいかん きかい そうしゅつ 子どもたちの図書館来館の機会を創出する ため、おはなし会 ※10 をはじめ、各種行事を 開催する。	と しょかん 図書館	○	○
れんけい 連携による とりく 取り組み	しりつ としょかん だんたいか だしせい ど かつよう 市立図書館の団体貸出制度を活用のもと、 子どもたちの読書環境の向上を図る。 (高校生等も対象)	しょうがっこう 小学校 ちゅうがっこう 中学校 と しょかん 図書館	○	○
	としょかん みりよく ゆうよう りかいそくしん 図書館の魅力や有用さの理解促進のため、 図書館見学、または利用体験の実施に努め る。	と しょかん 図書館	○	
	としょかん やくわり じゅうようせい しゅうち ほか 図書館の役割や重要性の周知、PRを図るた め、職場体験や実習を受入れる。	と しょかん 図書館		○
	こ ほん で あい きかい ば そうしゅつ 子どもたちが本と出会う機会の場の創出を 趣旨に、市立の子ども関連機関が連携、 協力のもと、行事等を行う。 例) スタンプラリー	ぶんこうしん 文公振 と しょかん 図書館	○	
	こ どもたちが よ ききき せき すがた 子どもたちが読み聞かせやおはなし(素語 り) ※17 を聞く機会の創出のため、おはなしボ ランティアの受入れに努める。	しょうがっこう 小学校 と しょかん 図書館	○	
	かくしょかん どもくしょかんきょう こうじょう ほか 各所管での読書環境の向上を図るため、 市立図書館で生じたりサイクル本を優先 譲渡のもと、子どもたちの利用に供する。	しょうがっこう 小学校 ちゅうがっこう 中学校 せい か ス青課 と しょかん 図書館	○	○
ほごしゃ こ 保護者、子ど もへのアプロ ーチ	かぞく どもくしょ つう かぞく 家族みんなで読書を通じた家族のコミュニケ ーションを深めていく「家読 ※24」について、 児童の保護者に向けて啓発を図る。	しょうがっこう 小学校	○	

しきく じぎょう 施策・事業	とりく ないよう 取組み内容	しょかん 所管	しょう 小 がくせい 学生	ちゅう 中 がくせい 学生
ほごしや こ 保護者、子どもへのアプローチ	としましつ どう つう としましつ ほん しょうかい 図書室だより等を通じ、図書室の本の紹介 かつどう じょうほう ほごしや とど はか や活動の情報が保護者に届くよう図るとともに、 せいと かい ほごしや としましつ ほん 生徒を介して保護者が図書室の本を りよう か 利用することを可とする。	ちゅうがっこう 中学校		○
	こ ぼごしや ほん であ 子どもや保護者の本との出会いのサポートを しゅし せっきよくてき 趣旨に、積極的にフロアワーク※19に努める。	と しょかん 図書館	○	○
	どくしょ みりよく こうか しゅうち 読書の魅力や効果の周知およびPRを趣旨 ほごしや む てまえこうざ おこな に、保護者向けに出前講座を行う。	と しょかん 図書館	○	○
PR	と しょかん りよう そくしん しゅし し こうほう 図書館利用の促進を趣旨に、市広報や Web サイト、また市SNS※3を活用のもと、 ぎょうじ どくしょじょうほう しゅうち 行事や読書情報の周知、PRに努める。 こうこうせいどう たいしやう (高校生等も対象)	と しょかん 図書館	○	○
	こ ぼごしや ほん であ 子どもや保護者の本との出会いのサポートを しゅし さくせい 趣旨に、ブックリスト※20を作成のうえ配布に つと 努める。	と しょかん 図書館	○	○

#### (4) たよう こ 多様な子どもへの施策

しきく じぎょう 施策・事業	とりく ないよう 取組み内容	しょかん 所管	しょう 小 がくせい 学生	ちゅう 中 がくせい 学生
しょう 障がいのある 子どもへの とりく 取組み	じゅぎょうじかん かつよう ずかん えほん した 授業時間を活用して、図鑑や絵本に親しんだ り、児童の読み聞かせを聞いたりする時間を も 持つ。	しょうがっこう 小学校	○	
	つうじょう としよ どくしょ こんなん りようしやむ 通常の図書での読書が困難な利用者向け しょう とくせい おう かくしゅしりやう しゅうしゅう に、障がいの特性に応じた各種資料の収集に つと こうこうせいどう たいしやう 努める。(高校生等も対象)	と しょかん 図書館	○	○
がいこく 外国にルーツ を持つ子ども への読書 しえん 支援	しじょうなわてし きやうしつ じどう あ 「四條畷市にほんご教室」において、児童に合 えほん えら ずいじよ き おこな った絵本を選び、随時読み聞かせを行う。	ぶんこうしん 文公振	○	

施策・事業	取り組み内容	所管	小 がくせい 学生	中 がくせい 学生
外国にルーツ を持つ子ども への読書 支援	外国語で書かれた図書の収集に努める。 (高校生等も対象)	図書館	○	○
	日本語での利用案内が困難な利用者向け に、外国語で書かれた利用案内を作成する。 (高校生等も対象)	図書館	○	○

### 3 その他の取り組み

#### (1) 職員の意識と技術の向上

子ども関連施設の職員は、上記の施策の他、研修や会議等で読書の大切さへの理解を深め、知識およびスキルの向上に努めるとともに、関連施設間での連携を図ります。また、各所管の担当が中心となって、所管内での読書活動推進の機運を高めるとともに、関連部署間での情報共有に努め、一体となった取り組みの推進を図ります。

#### (2) 図書館における情報システムの更新と活用

利用者の円滑な利用と蔵書の計画的管理に資する図書館情報システムを定期的に更新するとともに、子どもたちの読書意欲の喚起につながるプログラムの活用を努めます。

#### (3) 電子図書について

第2章の3で示したアンケート調査において、小学生・中学生ともに、約半数が電子図書を読んだ経験があることが分かりました。この結果に加え、国におけるデジタル庁の創設や学校へのGIGAスクール構想<sup>※5</sup>導入など、益々進む社会のデジタル化の流れを踏まえると、子どもの読書活動においても電子図書を利活用することの検討が必要と考えられます。

しかしながら、電子図書を読んだことがあると回答した児童生徒への追加質問を見ると、小学生では、約60%が一番よく読むのが漫画であり、中学生では、約50%が漫画しか読まないと回答しています。

また、電子図書については、利便性がある一方で、紙の図書との差異を指摘する諸研究がある他<sup>※Q</sup>、電子図書導入校において実施された生徒向けのアンケート調査において、「長時間の読書に向かない気がした」や「目が疲れる」、「読みたい本がない」などの否定的な感想が多い結果となったとの報告<sup>※R</sup>もあることを踏まえると、現段階では、さ

らなる<sup>けんきゅう</sup>研究や<sup>ちようさほうこく</sup>調査報告などの<sup>ないよう</sup>内容を<sup>さんこう</sup>参考にしながら、国の第5次計画の基本方針に鑑み、子どもたちにとっての<sup>さいてきかい</sup>最適解を<sup>しんちょう</sup>慎重に<sup>かんが</sup>考えるのが<sup>てきせつ</sup>適切と<sup>はんだん</sup>判断し、<sup>だい</sup>第4次計画において<sup>ちようさけんきゅうきかん</sup>は調査研究期間とすることとします。

.....

## ようごかいせつ 用語解説

### ※16) ファンフレンズプログラム

<sup>うた</sup>歌や<sup>えほんとう</sup>ゲーム、<sup>こ</sup>絵本等の<sup>たち</sup>子ども<sup>たの</sup>達が<sup>かつどう</sup>楽しめる<sup>つう</sup>活動を通じて、<sup>じこ</sup>自己<sup>ほう</sup>コントロール法と<sup>しゃかいてき</sup>社会的スキル、<sup>じここうていかん</sup>自己肯定感、<sup>じようちよてき</sup>情緒的レジリエンス(自己回復力)などを<sup>み</sup>身に<sup>つ</sup>付け、<sup>こ</sup>子ども<sup>ふあん</sup>の不安や<sup>よく</sup>抑うつなどを<sup>ふせ</sup>防ぐことをねらいとする。

### ※17) おはなし(素語り)

<sup>ほん</sup>本を読むのではなく、<sup>よ</sup>語る<sup>かた</sup>人が<sup>ひと</sup>物語を<sup>ものがたり</sup>覚えて、<sup>おぼ</sup>聞く<sup>き</sup>人に向かって<sup>む</sup>語り<sup>かた</sup>かけるもの。(ストーリーテリングともいう。)

### ※18) エプロンシアター

<sup>むねあ</sup>胸当て<sup>しき</sup>式の<sup>ぶたい</sup>エプロンを<sup>み</sup>舞台に見<sup>た</sup>立て、<sup>えんじゃ</sup>演者が<sup>にんぎよう</sup>エプロンの<sup>と</sup>ポケットから<sup>と</sup>人形を取り<sup>だし</sup>出して<sup>じよう</sup>エプロン上で<sup>おこな</sup>行う<sup>にんぎようげき</sup>人形劇。マジックテープを利用して、<sup>りよう</sup>人形を<sup>にんぎよう</sup>エプロンに<sup>は</sup>貼り<sup>は</sup>つけながら<sup>えん</sup>演じる。

### ※19) フロアワーク

<sup>としよかんしよくいん</sup>図書館職員が<sup>かんない</sup>フロア(館内)を<sup>りようしゃ</sup>めぐりながら、<sup>とく</sup>利用者、<sup>こ</sup>特に<sup>しつもん</sup>子どもからの<sup>こた</sup>質問に<sup>こた</sup>答えたり、<sup>ほん</sup>本の<sup>あんない</sup>案内や<sup>しょうかい</sup>紹介をする<sup>どくしよしえん</sup>読書支援のこと。子どもは、<sup>なか</sup>カウンターの中<sup>なか</sup>にいるより<sup>フロア</sup>フロアにいる<sup>しよくいん</sup>職員の方が<sup>ほう</sup>質問<sup>しつもん</sup>しやすく、<sup>しよくいん</sup>職員も<sup>こ</sup>子どもからの<sup>けはい</sup>サインや<sup>かん</sup>気配を感じ<sup>と</sup>取りやすい。

### ※20) ブックリスト

<sup>きじゆん</sup>ある<sup>せんたく</sup>基準や<sup>ほん</sup>テーマで<sup>しょうかい</sup>選択した<sup>かんべん</sup>本を紹介する<sup>せんていもくろく</sup>簡便な<sup>こ</sup>選定<sup>む</sup>目録。子ども<sup>ばあい</sup>向けの<sup>こ</sup>場合、<sup>こ</sup>子どもが<sup>ほん</sup>本を<sup>よ</sup>読む<sup>つく</sup>てが<sup>しよめい</sup>がかりになるように<sup>さくしゃ</sup>作<sup>しゅつばんしゃとう</sup>られている。書名、作者、出版社等のほかに、<sup>かんたん</sup>簡単な<sup>ないようしょうかいぶん</sup>内容紹介文をつけており、<sup>けいたい</sup>形態は、<sup>まい</sup>1枚の<sup>かみ</sup>紙を<sup>お</sup>折り<sup>たた</sup>畳んだものや<sup>じよう</sup>パンフレット状のもの等、<sup>とう</sup>様々<sup>さまざま</sup>である。

### ※21) 子育て総合支援センター

<sup>さい</sup>0歳から<sup>さいみまん</sup>18歳未満の子<sup>こそだ</sup>育てについての<sup>そうごうそうだんまどぐち</sup>総合相談窓口となるべく、<sup>へいせい</sup>平成11年(1999年)<sup>ねん</sup>4月に<sup>が</sup>子育て<sup>こそだ</sup>支援<sup>しえん</sup>センターとして<sup>じどうかていそうだん</sup>オープンし、<sup>ぎゃくたいそうだん</sup>児童<sup>ざいたく</sup>家庭<sup>ねん</sup>相談、<sup>ねん</sup>虐待<sup>が</sup>相談や<sup>こそだ</sup>在宅<sup>しえん</sup>の子<sup>おこな</sup>育て<sup>どう</sup>支援<sup>ねん</sup>を行っている。同18年(2006年)<sup>ねん</sup>4月から、<sup>ねん</sup>総合<sup>が</sup>的<sup>そうごうてき</sup>な<sup>こそだ</sup>子<sup>しえん</sup>育て<sup>きよてん</sup>支援<sup>しせつ</sup>の<sup>しせつ</sup>拠点<sup>しせつ</sup>施設<sup>しせつ</sup>を<sup>めざし</sup>めざし、<sup>しじょうなわてしりつ</sup>四<sup>こそだ</sup>條<sup>そうごうしえん</sup>市<sup>こそだ</sup>立<sup>こそだ</sup>子<sup>そうごうしえん</sup>育て<sup>こそだ</sup>総合<sup>しえん</sup>支援<sup>きよてん</sup>センターとなる。

## ※22) 図書としよの時間じかん

教員きょういんが子どもたちを引率いんそつのうえ来室らいしつし、自主的じしゆてきな読書どくしょの時間じかんの確保かくほ、図書としよの貸出かだし等とう、図書室としよしつで授業じゆぎやうを行う時間おこな。

## ※23) 学校がっこう図書館としよかん図書標準としよひょうじゆん

文部省もんぶしやう(当時とうじ)が平成5年へいせい ねん(1993年ねん)に設定せっていしたもので、学校がっこうの規模きぼに応じ、学校がっこう図書館としよかんに整備せいびすべき蔵書ぞうしよの標準ひょうじゆんが示しめされており、四條しじょう暇市なわてしの平均へいきんクラス数すうに照らし合あわせると以下いの通りとおとなる。

・小学校平均しょうがっこうへいきん13~18クラスの場合ばあい7,960冊さつ+400冊さつ×(学級数-12)がっきゆうすう

・中学校平均ちゅうがっこうへいきん13~18クラスの場合ばあい10,720冊さつ+480冊さつ×(学級数-12)がっきゆうすう

## ※24) 家読うちどく

「家読うちどく」は「家庭読書かていどくしょ」の略りやく。家読うちどくは「朝読書あさどくしょ」(朝読あさどく)の家庭版かていばんで、朝読あさどくが学校がっこうで行おこなわれるのに対し、家読うちどくは家庭かぞくで家族かぞくが一緒いっしょに読書どくしょし、感想かんそうを話し合あうことにより家族かぞくのコミュニケーションふかが深ふかまるとされている。

## 注釈ちゆうしゃく

※A) 乳幼児にゅうようじの言葉ことばの発達過程はつたつに関しては、小椋おぐらたみ子こ『乳幼児期にゅうようじきのことばの発達はつたつとその遅れ』(ミネルヴァ書房)や今井いまいおつみ『ことばの発達はつたつの謎なぞを解く』(筑摩書房)に詳しい。

※B) 乳幼児期にゅうようじきにおける読み聞かせよききの有効性ゆうこうせいに関しては、雨越あまごし康子やすこ他「幼児期ようじきの集団しゅうだんおよび家庭かていにおける絵本えほんの読み聞かせよききと認知能力にんちのうりよく」(『日本教育工学会論文誌』vol.43,no.4)やメアリアン・ウルフ『プルスぷるとイカ』(インターシフト)で触れられている。また、書き言葉かと話し言葉ことばの違いちがは、岡本おかもと夏木なつき『ことばと発達はつたつ』(岩波書店)に詳しい。

※C) 読み聞かせよききの情緒的効果じゆうちよてきこうかについては、田島たじま信元のぶもと「絵本えほんと子どもの発達こ～読み聞かせはつたつ、読書活動よききの意義いぎと役割やくわり～」(『子どもの文化』通巻508号)や伊澤いざわ永修えいしゆう「乳児にゅうじの保育ほいくを考える(1)―絵本えほんの読み聞かせよききが支える乳児にゅうじの言葉ことばの発達はつたつ―」(『こども教育研究所紀要』創刊号)で指摘してきされている他、松崎まつざき泰他たかほか『本の読み方ほん』で学力よは決かたまる』(青春出版社)に詳しい。

※D) 荒牧あらかみ美佐子みさこ「読み聞かせよききの実態じったいと言葉ことばの発達はつたつ―幼児期ようじきから小学生しょうがくせいの家庭教育かていきやういく調査ちゆうさ―」(『これからの幼児教育』2019年春号)の中で、幼児期ようじきの読み聞かせ体験よききが小学校以降しょうがっこういこうの読書どくしょの頻度ひんどと相関関係そうかんかんけいがあるとの調査結果ちゆうさけっかが示しめされている。

※E) 子どもの文法習得過程ぶんぽうしゅうとくに関しては、内田うちだ伸子のぶこ「子どもは文法ぶんぽうをどのように身みにつけ

- るか」(『月刊言語』436号)やミラー&ギルディア「子どもはどのように言葉を覚えるのか」(『別冊日経サイエンス』193号)で紹介されている。
- ※F) 言語獲得の敏感期に関しては、永江誠司「脳科学から考える子どもの読む力、書く力」(『児童心理』no.863)の中で、レネバーグ(アメリカの神経生理学者)の説が紹介されている。
- ※G) 5歳前後が言語獲得の充実期であることは、秋田喜代美「子どもの発達と絵本、読書」(『平成30年度国際子ども図書館児童文学連続講座講義録』)で触れられている他、立石美津子『心と頭がすすく育つ読み聞かせ』(あさ出版)では、幼児期に量・質ともに言葉に多く触れることで言語能力が変わると指摘されている。
- ※H) 読み書きの学習開始前に書き言葉に触れておくことの有効性に関しては、岸本裕史『もうすぐ1年生学力はどこまで必要か』(大月書店)において指摘されている他、田島信元が前掲論文において文字習得が円滑化することを説いている。また、内田伸子「学力格差は幼児期から始まるか?—経済格差を超える要因の検討—」(『教育社会学研究』第100集)において、幼児期の語彙能力は小学校の国語学力と因果関係があることが指摘されている。
- ※I) 高橋登「読書を通して言葉の力を育てる」(『児童心理』no.883)の中で、読書を通して未知語に出会い、意味の推測を繰り返すことの重要性が解かれ、円滑に読めるかどうかで読解の成績が決まると指摘されている。
- ※J) 今井むつみ『ことば力と思考力』(筑摩書房)の中で、「9歳の壁」と称して読書で抽象語を習得しておくことの大切さに触れられている。
- ※K) 10歳ごろにおける思考方法の変化に関しては、秋田喜代美「子どもの「考える力」はどう発達するのか」(『児童心理』第48巻4号)や内田伸子『AIに負けない子育て』(ジヤース教育新社)で触れられている。
- ※L) 文字が読めることと本が読めることとは別であることにについては、横山真貴子「読書教育における保、幼、小の連携—絵本でつなぐ幼児期の教育と小学校教育—」(『学校図書館』no.737)や荒牧美佐子の前掲論文において指摘されている。また、文章読解のしくみに関しては、西林克彦『わかったつもり』(光文社)や高橋登「学童期の子どもの読み能力の規定因について~componential approachによる分析的研究~」(『心理学研究』第67巻第3号)に詳しい。
- ※M) この時期の前頭前野の成長に関しては、川島隆太他の『脳と音読』(講談社)や坂野登『ここを育てる脳のしくみ』(青木書店)で紹介されている。
- ※N) 今井むつみは、前掲『ことばの発達の謎を解く』の中で、言語が思考を作ると述べている。

※O) 内田伸子が『想像力』(講談社)の中で、想像力の源は見たり聞いたりしたものであり、素材が多いほど膨らみ方が豊かになると記載している他、「読むこと書くことが育むもの一推敲を通しての自己の発見」との別稿がある。また、榎本博明『教育現場は困ってる』(平凡社)の中で、思考においては知識の蓄積と日常レベルへの落とし込みが重要であると説かれている。

※P) このことは、秋田喜代美前掲「子どもの発達と絵本、読書」の中で説かれている。また、国立青少年教育振興機構が行った『子どもの頃の読書活動の効果に関する調査研究』(令和3年)の報告書において、「高校時の読書量は小学校高学年から中学校の時の読書量と有意な正の相関関係」にあると報告されている他、小中高と継続して読書を行っている場合、認知機能が高いことが示唆されたとも報告されている。

※Q) 例えば、柴田博仁「最適な道具で学ぼう!これからの読書を考えよう!~読み書きメディアの認知科学~」(令和5年第1回生駒子ども読書会議における講演)において、深い理解が必要な読書は紙媒体の方が適しているなどの指摘がある他、松山麻珠「表示媒体の違いと読書の諸要素が誤りを探す読みに与える影響-光環境とインタラクティブに着目して-」([https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/201521644\\_thesis.pdf/2017](https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/201521644_thesis.pdf/2017))で諸研究が紹介されている。また、国立青少年教育振興機構が行った前掲調査研究(令和3年)の報告において、読書ツールに関係なく、読書している人は、していない人より意識・非認知能力が高い傾向があるが、本(紙媒体)で読書している人が最も高い傾向があると指摘されている。

※R) 木下通子「電子書籍を導入して」(『学校図書館』no.862)による。調査結果から、「電子図書を入れたら利用が伸びると考えるのは幻想」との所感を当調査実施者は示している。

## 第5章 市立図書館における大人へ向けた読書活動の推進について

### 1 子どもの読書活動の推進の観点から

子どもの読書の習慣化には、普段の生活環境から受ける影響が大きいといわれています。身のまわりに本があるかどうか、また日頃から本との触れ合いがあるかなど、自然と本に興味に向くような環境が重要ということです。その環境は大人が作り出すものです。つまり、子どもの読書の習慣化の過程において、大人の果たす役割は極めて大きいということです。なかでも、一番影響を与えるのは家庭における環境であり、保護者の関わり方などいわれています。小さい頃に読み聞かせをしてもらっていたか、また保護者が普段から本を読んでいるかなどです。

#### <第2章の3で示したアンケート調査の結果より>

##### ◇保護者の本を読む冊数と読み聞かせの頻度の相関

読み聞かせ頻度	ほとんど毎日	週1～2回	月1～2回	ほとんどない
月1冊以上読む	46%	34%	7%	13%

##### ◇「小さい頃にお家のひとに本を読んでもらっていたか」と「本が好きか」の回答の相関 (小中学生の計)

読み聞かせ頻度	よく	時々	あまりない	覚えていない
「本が好き」肯定以上	77%	61%	64%	54%

この度のアンケートの調査結果を振り返ると、ひと月のうちに読む冊数が多い保護者ほど読み聞かせをよく行っており、また、小さい頃によく読み聞かせをしてもらっていた子どもは、本が好きと回答する割合が高くなっています。この結果からも確認できるように、大人の本を読む習慣からの子どもへの連関が重要ということです。

しかし、家庭のみならず、地域、さらには「まち」全体が読書の雰囲気満ちていることが理想と言えます。本市が、より多くの子どもたちを本好きへとつなぐ読書の雰囲気満ちた「まち」となるよう、大人読書活動についても推進のための方向性を設定することとします。

### 2 大人読書活動推進のための方向性

第1章の4で触れたとおり、情報のデジタル化が急速に進展しています。その影響は、

図書館にも波及し、本の検索や予約などのWeb サービスに加え、図書貸出カードの電子化、また電子図書館などの非来館型サービスを導入する自治体がみられるようになってきました。しかし、その一方で、「場としての図書館」も注目されています※A。

「場としての図書館」は、行き場所や居場所がない人の避難的な利用のみならず、人は豊かな生活を送るうえで、家庭や職場・学校以外に、自身が落ちつけたり、楽しんだりして過ごせるお気に入りの場所が必要であるという社会学的見地※Bからの利用形態を含む考え方です。

こうした考え方を踏まえると、図書館は利用が無料であり、かつ自由に入退館できることから、「場」としての利用形態と親和性があるといえ、今後、そのような役割への期待やニーズが寄せられるとの想定から、近年、新規に開館する際や改修を行う際には、長時間滞在や集いを意識した設備やコーナーを設ける図書館が見られるようになってきます※C。

また、「場としての図書館」は、個人やコミュニティに資するものを生み出すことが期待できるとの考え方も注目されています。つまり、一定数の人が自身の「場」として同じ場所に定期的に集うようになると、利用者間で交流やつながりが生まれる可能性が生じますが、共通の「場」をきっかけにした交流やつながりは、ネットワークを生みやすく、それらは社会の効率性を高めることにつながり、延いては地域の諸所方面において好ましい効果をもたらすことが期待できるとの考え方です※D。

このように、交流やつながりが公共財ともいふべきものを生み出すのであれば、誰もが気軽に集まりやすい図書館はその創出の場として適しているといえ、期待が寄せられているわけです※E。

従来、図書館は静寂であることを良しとし、交流やつながりの場としては認識されてきませんでした。ネットワークが創出されるような集いの場は、個々人に有益な知識や情報が交わされているはずであり、この観点においては集いの場におけるコミュニケーションも一つの知識や情報の媒体であると考えられ、元来、知識や情報との出会いの場は図書館の本来的機能であるから、集い、交流やつながりの場としての役割も、図書館の機能の一つと考えられるということです※F。

また、交流やつながりを目的としない個人的利用（マイプレイス型利用）であっても、図書館職員とやりとりをするケースは多く、そのやりとりにおいては、情報の流れは図書館職員から利用者へ資料を提供する場合のみならず、図書館職員が利用者から有意義な情報を得られることも少なくなく、その情報が他の利用者との応対時に資することもあることから、交流やつながりを求める個人的利用かにかかわらず、多くの人が図書館に集い、会話が交わされることは有益といえます。

既述のとおり、従来、図書館は集いや交流の場としては認識されてきませんでした。しかし、「場」としての役割が学術的に注目されているだけでなく、社会の高齢化や働き方改革推進の動きによる余暇利用へのニーズや、また学び直しへの関心の高まりなど、図書館を「場」として求める人々の増加が社会的素地としても伺える今日、社会の変化への対応を図るべく※G、まず図書館に人が集まることが重要と考え※H、新たな方向性として、人が集い、図書館が知識や情報の交流の創出の場となることを付加し、以下をそのスローガンとします。

## ◇大人の読書活動の推進の方向性：「集い、共創」

### 3 新たな方向性を踏まえた施策の展開

大人の読書活動の推進に関し、従来行ってきた蔵書の充実や貸出の重視、情報提供の強化、テーマ展示をはじめとする本選びのサポート等の基本的取組みに加え、前項で付加した方向性を踏まえ、以下の施策について新たに検討します。

#### <検討すべき施策>

利用形態	内容	施策例
交流型	つながりの機会の創出を図り、参加者間での会話があるような行事を実施。	音読ワークショップ、読書会、絵本セラピーなど
	行事参加を促進するために、実施する行事を可視化。	オープン型行事用スペースの設置、Web サイトや SNS によるPRの強化
共有型	特定の趣旨で設けたスペースを共有で利用することにより、つながりの創出を図る。	フリー利用型のおはなしの部屋 <small>へや</small> の設置、乳幼児連れ保護者向けルームの整備
	自由な交流が可能なスペース、またつながりが生まれるようなスペースの提供。	フリー利用が可能なレストスペース <small>(飲食可)</small> の設置
マイプレイス型	調査研究に資する設備や機器などを設置のもと、多様な学びをサポートする。	ワーキングデスクの設置、情報検索性用パソコンの整備
	長時間滞在型利用や増加傾向の高齢の利用者への対応を図り、什器類等の整備に努める。	座席の量的充実

また、図書館から遠方の市民、または高齢などの理由により外出が困難な市民に対しては、図書館利用の機会確保を図るため、以下の施策を検討します。

#### <検討すべき施策>

対象	施策例
図書館から遠方の市民	公共施設などを利活用のもと、借出し自由の本棚を設置
外出が困難な市民	自宅へ貸出本の配達

なお、上記施策例のうち、ハード整備や什器類等の調達が必要なものについては、四條畷市個別施設計画における公共施設再編に合わせて検討します。

## 4 施策の展開と合わせた取組み

前節3にあげた施策の効果的展開を図るため、以下の点にも取り組みます。

### ① ICTを活用したPR

近年は、物理的な場所に出向くことが目的であっても、Webサイトなどのインターネットが入口とされるケースが多くなっていると考えられます<sup>※I</sup>。自治体事業も例外ではないと考え、「場としての図書館」の施策展開にあたってはWebサイトやSNSを積極的に活用したPRを図ります。

### ② 図書館職員の知識・スキルなどの向上

つながりを創出し、促進させるためには、職員の役割は重要との指摘があります<sup>※J</sup>。その場の秩序を守り、居心地の良さを保つ管理人としての役割のみならず、つながりを創出するにはファシリテーター的、あるいはコーディネーター的な役割が必要となることです。図書館職員は、司書としての知識やスキルに加え、当該スキルの向上のため、他市行事の視察や研修の参加などを積極的に行います。

## 注釈

※A) 「場」の考え方と図書館との関係に関しては、久野和子「フィンランドにおける「第三の場」(third places)としての図書館」(『神戸女子大学文学部紀要』49巻)

に詳しい。

※B) レイ・オルデンバーグ(アメリカの社会学者)が提唱した「第三の場(サードプレイス)」に基づく考え方。第三の場と図書館との関係に関しては、久野和子前掲論文で論じられている。

※C) 滞在型利用や集いを意識した造りの図書館は、東京都武蔵野市の武蔵野プレイス(平成23年7月開館)が有名。近隣においては、守口市立図書館や寝屋川市立中央図書館が「第三の場」を意識したレイアウトにより運用している。

※D) 社会学や政治学などで用いられる「社会関係資本」の考え方。好ましい効果が期待できる方面として、子どもの教育成果も含まれている。社会関係資本と図書館との関係に関しては、久野和子前掲論文や佐々木詠香他「持続可能な図書館運営に求められる新たな機能について—社会関係資本形成を考慮した図書館運営の検討—」(『都市経営』No.15)で論じられている。

※E) 第三の場への社会的関心の高まりの指標としては、国立国会図書館のオンライン検索システム「NDL ONLINE」において、タイトルに「第三(3)の場」(サードプレイス、第三(3)の居場所も同義語とする)を含む雑誌記事のヒット数が近年増加していることがあげられる。2010年から2013年は多い年で4件であったが、2014年に10件に増加したのち、2021年には最多の28件となった。

※F) 集いの場が知識や情報との出会いになるとの考え方は、新出他「対談あらためて考えるサードプレイスと図書館」(『LRG』第30号)で説かれている。

※G) シヤリ・ラマムリタ・ランガナタン(インドの図書館学者)が提唱した図書館学の五法則の一つに、「図書館は成長する有機体(Growing Organism)」との考えがある。

※H) 図書館を人が集まる場所にとの動きに関しては、日本経済新聞の2023年8月5日朝刊において取り上げられている。記事名「関西の図書館、人呼ぶ拠点」。

※I) 渡部晶「図書館・書店を拠点とした地域活性化への展望～日本における「サードプレイス」の可能性」(『ファイナンス』Vol.53, No.11)で指摘がある。

※J) 交流やつながりの創出において、ファシリテーター的役割の人物が重要であることに関しては、久野和子前掲論文の他、天野圭子他「「サードプレイス」における子育て世代や高齢者のつながり形成に関する研究」(『福祉のまちづくり研究講演集3』)で指摘されている。

しじょうなわてしりつとしょかんきょうぎかいいんめいぼ  
 ○四條畷市立図書館協議会委員名簿

けいしりやく  
 (敬称略)

委員名	基準	任期開始
てつ としひろ 鉄 寿広	がっこうきょういく かんけいしゃ 学校教育の関係者	れいわ ねん がつ にち 令和3年6月1日～
きむら みのる 木村 実	がっこうきょういく かんけいしゃ 学校教育の関係者	れいわ ねん がつ にち 令和4年6月1日～
おおば つばら 大庭 つばら	しゃかいきょういく かんけいしゃ 社会教育の関係者	へいせい ねん がつ にち 平成29年6月1日～
たかがき さとみ ○高垣 聡美	しゃかいきょういく かんけいしゃ 社会教育の関係者	へいせい ねん がつ にち 平成29年6月1日～
ふじい けいこ 藤井 啓子	しゃかいきょういく かんけいしゃ 社会教育の関係者	れいわ ねん がつ にち 令和3年6月1日～
はやし みか 林 美香	かていきょういく こうじょう し かつどう おこな 家庭教育の向上に資する活動を行うもの	へいせい ねん がつ にち 平成29年6月1日～
きんじょう ゆうこ 金城 優子	かていきょういく こうじょう し かつどう おこな 家庭教育の向上に資する活動を行うもの	れいわ ねん がつ にち 令和3年6月1日～
ふくい たえこ ◎福井 多恵子	がくしきけいけん もの 学識経験のある者	へいせい ねん がつ にち 平成27年6月1日～
こばやし はつね 小林 初根	がくしきけいけん もの 学識経験のある者	へいせい ねん がつ にち 平成29年6月1日～
おざき やすひら 尾崎 安啓	がくしきけいけん もの 学識経験のある者	れいわ ねん がつ にち 令和3年6月1日～

※ 基準は、四條畷市立図書館協議会条例第2条に定める委員の任命の基準による。

※ ◎は会長、○は副会長

しんぎ けいか  
 ○審議の経過

開催日	内容
れいわ ねん がつ にち 令和5年10月24日	だい じしじょうなわてし こ どくしょかつどうすいしんけいかく さくていおよ げんあん ない 第4次四條畷市子ども読書活動推進計画策定及び原案の内 よう せつめい 容の説明
れいわ ねん がつ にち 令和6年1月11日	(1) だい じしじょうなわてし こ どくしょかつどうすいしんけいかく げんあん しもん 第4次四條畷市子ども読書活動推進計画(原案)の諮問 (2) だい じしじょうなわてし こ どくしょかつどうすいしんけいかく げんあん しんぎ 第4次四條畷市子ども読書活動推進計画(原案)の審議
れいわ ねん がつ にち 令和6年1月31日	(1) だい じしじょうなわてし こ どくしょかつどうすいしんけいかく げんあん ぜんかい 第4次四條畷市子ども読書活動推進計画(原案)の前回 しんぎ かくにん 審議の確認 (2) だい じしじょうなわてし こ どくしょかつどうすいしんけいかく げんあん ついか 第4次四條畷市子ども読書活動推進計画(原案)の追加 しんぎ 審議
令和6年2月21日	だい じしじょうなわてし こ どくしょかつどうすいしんけいかく げんあん しもん たい 第4次四條畷市子ども読書活動推進計画(原案)の諮問に対 する とうしん 答申

※次ページ掲載の答申については、原本どおりの掲載とする。

令和6年 2月21日

四條畷市立図書館

館長 田中 学 様

四條畷市立図書館協議会

会 長 福井 多恵子

**第4次四條畷市子ども読書活動推進計画（原案）について（答申）**

令和6年1月11日付け、畷教函第571号で諮問のありました第4次四條畷市子ども読書活動推進計画（原案）につきまして、慎重に審議を行った結果、別紙のとおり答申します。

以上

## 第4次四條畷市子ども読書活動推進計画(原案)について(答申)

## (1) 計画に盛り込む意見

意見	内容
直近の世界情勢に係る記載内容について	P3下段～P4上段、4 第4次計画策定の趣旨のなか、世界情勢に関する記載については、原案策定後の情勢をも反映させるよう追記するとともに、読書の持つ力が具体的に把握できるような表現にすること。
小中学生のアンケート調査結果における第4次計画での施策設定にあたっての留意点について	P11中段、3 現状と課題～アンケート調査結果から～の (2)小学生のアンケート調査結果および P12 下段の (3)中学生のアンケート調査結果のなか、学校での取り組みを家庭での読書へつなげる旨を追記するとともに、内容を再構成すること。
小学校での図書時間の確保について	P26下段、2 就学後のこどもたちへの施策の(2)重点施策のなか、「週1回、図書時間の確保に努める」との施策について、実践可能な内容に見直すこと。
学校図書館図書標準の達成に向けた予算確保について	P27上段、2 就学後のこどもたちへの施策の(2)重点施策のなか、ふるさと納税を使用することが前提と受け取れる表現を見直すこと。
定期刊行物の購入について	P27中段、2 就学後のこどもたちへの施策の(2)重点施策のなか、実態に即した内容に見直すこと。

## (2) 計画を進めるに付す意見

意見	内容
成果指標の達成基準について	P18 上段、5 成果指標と重点施策の(1)成果指標のなか、達成の基準については、増加させるに留まらず、さらに充実を図ること。

以上

# 子ども読書活動に関するアンケート調査結果

## 調査概要

### (1) 調査趣旨

第4次四條畷市子ども読書活動推進計画の策定にあたり、子どもの読書活動の現状を把握するために実施。

### (2) 調査対象

依頼先		対象	回答者数
忍ヶ丘あおぞらこども園		保護者	131
岡部保育所			
児童発達支援センター			
市内小学校6校	3年生	児童	344
	5年生		327
市内中学校3校	1年生	生徒	357
	3年生		305
合計			1464

### (3) 調査期間

令和5年1月17日～1月31日

※各項目の％は、小数点以下を四捨五入しています。そのため、各項目の％の合計が100％と  
ならない場合がありますが、合計値は100％と表記しています。

※本文中に記載がある「前回調査」(第3次計画策定時)の実施時期は以下のとおり。

平成30年5月29日～同年6月15日(保護者向けは同月21日)

## 1 乳幼児保護者向けアンケート結果

(1)忍ヶ丘あおぞらこども園・岡部保育所・児童発達支援センターに通われているお子さんの人数をお答えください。

	回答数	割合
1人	100	76%
2人	30	23%
3人	1	1%
合計	131	100%

(2)お子さんそれぞれの年齢を教えてください。

	人数	割合
0歳児	2	1%
1歳児	7	4%
2歳児	22	13%
3歳児	32	20%
4歳児	24	15%
5歳児	46	28%
6歳児	30	18%
合計	163	100%

※アンケート対象の乳幼児が同じ家庭に複数いる場合、一つの回答を人数分集計しています(きょうだい2人の場合、同じ回答を2回カウントしています)。

(3)ご家庭のどなたかがお子さんと一緒に本を見たり読んだりする機会はどのくらいありますか？

	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		6歳児		合計	
	人数	割合														
①ほとんど毎日	1	50%	2	29%	8	36%	12	38%	9	38%	11	24%	11	37%	54	33%
②週1～2回	1	50%	4	57%	7	32%	12	38%	6	25%	12	26%	4	13%	46	28%
③月1～2回	0	0%	1	14%	6	27%	2	6%	6	25%	11	24%	6	20%	32	20%
④ほとんどない	0	0%	0	0%	1	5%	6	19%	3	13%	12	26%	9	30%	31	19%
合計	2	100%	7	100%	22	100%	32	100%	24	100%	46	100%	30	100%	163	100%

(4)お子さんと一緒に見たり読んだりする本はどんな本ですか？(複数回答可)

	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		6歳児		合計	
	人数	割合														
①絵本	2	100%	6	86%	19	86%	27	84%	21	88%	36	78%	22	73%	133	82%
②読み物	0	0%	1	14%	1	5%	3	9%	2	8%	3	7%	2	7%	12	7%
③乗り物の本	0	0%	2	29%	6	27%	15	47%	11	46%	16	35%	6	20%	56	34%
④図鑑・知識の本	0	0%	1	14%	8	36%	20	63%	9	38%	22	48%	10	33%	70	43%
⑤折り紙など工作の本	0	0%	1	14%	1	5%	2	6%	2	8%	8	17%	6	20%	20	12%
⑥なぞなぞ、迷路など	0	0%	1	14%	2	9%	11	34%	5	21%	17	37%	12	40%	48	29%
⑦学習まんが	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4%	1	3%	3	2%
⑧その他	0	0%	0	0%	2	9%	4	13%	1	4%	5	11%	2	7%	14	9%
合計	2	100%	12	171%	39	177%	82	256%	51	213%	109	237%	61	203%	356	218%
回答数	2	100%	7	100%	22	100%	32	100%	24	100%	46	100%	30	100%	163	100%

(5)お子さんと一緒に見たり読んだりする本は、どのように入手されますか？(2つまで)

	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		6歳児		合計	
	人数	割合														
①図書館	2	100%	1	14%	6	27%	12	38%	7	29%	24	52%	11	37%	63	39%
②書店で購入	0	0%	6	86%	10	45%	26	81%	18	75%	30	65%	23	77%	113	69%
③インターネットで購入	0	0%	1	14%	7	32%	5	16%	3	13%	5	11%	4	13%	25	15%
④電子書籍	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	8%	2	4%	0	0%	4	2%
⑤譲り受ける	0	0%	2	29%	7	32%	11	34%	5	21%	8	17%	3	10%	36	22%
⑥その他	0	0%	0	0%	4	18%	2	6%	2	8%	4	9%	0	0%	12	7%
合計	2	100%	10	143%	34	155%	56	175%	37	154%	73	159%	41	137%	253	155%
回答数	2	100%	7	100%	22	100%	32	100%	24	100%	46	100%	30	100%	163	100%

(6)四條畷市立図書館(四條畷図書館・田原図書館)はどのくらい利用されますか？

	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		6歳児		合計	
	人数	割合														
①2週間に1回以上	2	100%	1	14%	3	14%	8	25%	2	8%	8	17%	7	23%	31	19%
②月に1回	0	0%	0	0%	2	9%	6	19%	2	8%	5	11%	2	7%	17	10%
③半年に2~3回	0	0%	0	0%	5	23%	3	9%	5	21%	8	17%	6	20%	27	17%
④ほとんど利用しない	0	0%	6	86%	12	55%	15	47%	15	63%	25	54%	15	50%	88	54%
合計	2	100%	7	100%	22	100%	32	100%	24	100%	46	100%	30	100%	163	100%

<参考>子どもの本の調達方法と図書館利用頻度との相関関係

図書館の利用頻度	子どもの本の調達方法													
	図書館		書店で購入		インターネット		電子書籍		譲り受ける		その他		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
2週間に1回以上	27	43%	17	15%	0	0%	0	0%	6	16%	0	0%	50	20%
月に1回	15	24%	13	11%	1	4%	0	0%	2	5%	1	8%	32	13%
半年に2～3回	17	27%	16	14%	5	20%	0	0%	3	8%	4	33%	45	18%
ほとんど利用しない	4	6%	68	60%	19	76%	4	100%	26	70%	7	58%	128	50%
合計	63	100%	114	100%	25	100%	4	100%	37	100%	12	100%	255	100%

(7)アンケートご回答の方ご自身は、普段1か月あたりどのくらい本を読みますか？

	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		6歳児		合計	
	人数	割合														
①ほとんど読まない	1	50%	5	71%	19	86%	15	47%	18	75%	25	54%	21	70%	104	64%
②1～2冊	1	50%	1	14%	2	9%	10	31%	4	17%	15	33%	5	17%	38	23%
③3～5冊	0	0%	1	14%	1	5%	5	16%	1	4%	4	9%	1	3%	13	8%
④6冊以上	0	0%	0	0%	0	0%	2	6%	1	4%	2	4%	3	10%	8	5%
合計	2	100%	7	100%	22	100%	32	100%	24	100%	46	100%	30	100%	163	100%

<参考>保護者が1か月に読む冊数と子どもの本の調達方法との相関関係

子どもの本の調達方法	保護者が1か月に読む冊数									
	ほとんど読まない		1～2冊		3～5冊		6冊以上		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
図書館	29	28%	23	61%	6	46%	5	63%	63	39%
書店で購入	71	68%	27	71%	12	92%	4	50%	114	70%
インターネットで購入	18	17%	6	16%	1	8%	0	0%	25	15%
電子書籍	2	2%	1	3%	1	8%	0	0%	4	2%
譲り受ける	26	25%	8	21%	0	0%	3	38%	37	23%
その他	11	11%	1	3%	0	0%	0	0%	12	7%
合計	157	151%	66	174%	20	154%	12	150%	255	156%
回答数	104	100%	38	100%	13	100%	8	100%	163	100%

<参考> 保護者が1か月に読む冊数と図書館利用頻度との相関関係

図書館の利用頻度	保護者が1か月に読む冊数									
	ほとんど読まない		1～2冊		3～5冊		6冊以上		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
2週間に1回以上	13	13%	11	29%	3	23%	4	50%	31	19%
月に1回	10	10%	4	11%	2	15%	1	13%	17	10%
半年に2～3回	16	15%	10	26%	1	8%	0	0%	27	17%
ほとんど利用しない	65	63%	13	34%	7	54%	3	38%	88	54%
合計	104	100%	38	100%	13	100%	8	100%	163	100%

<参考> 保護者が1か月に読む冊数と子どもと一緒に本を読む頻度との相関関係

子どもと一緒に本を読む頻度	保護者が1か月に読む冊数									
	ほとんど読まない		1～2冊		3～5冊		6冊以上		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	27	26%	15	39%	6	46%	6	75%	54	33%
週1～2回	26	25%	18	47%	1	8%	1	13%	46	28%
月1～2回	28	27%	2	5%	2	15%	0	0%	32	20%
ほとんどない	23	22%	3	8%	4	31%	1	13%	31	19%
合計	104	100%	38	100%	13	100%	8	100%	163	100%

(8) お子さんと一緒に本を見たり読んだりすることによってどのような効果を期待しますか？(2つまで)

	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		6歳児		合計	
	人数	割合														
①コミュニケーション	2	100%	5	71%	14	64%	26	81%	20	83%	34	74%	20	67%	121	74%
②楽しみを得る	1	50%	2	29%	6	27%	8	25%	6	25%	11	24%	9	30%	43	26%
③集中力の向上	0	0%	2	29%	0	0%	4	13%	3	13%	7	15%	3	10%	19	12%
④知識の取得	0	0%	1	14%	7	32%	5	16%	6	25%	12	26%	9	30%	40	25%
⑤将来の学力向上	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	2	4%	1	3%	4	2%
⑥読書習慣の定着	1	50%	0	0%	7	32%	2	6%	2	8%	7	15%	2	7%	21	13%
⑦心の成長	0	0%	4	57%	9	41%	16	50%	10	42%	14	30%	13	43%	66	40%
⑧その他	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
合計	4	200%	14	200%	43	195%	63	197%	47	196%	87	189%	57	190%	315	193%
回答数	2	100%	7	100%	22	100%	32	100%	24	100%	46	100%	30	100%	163	100%

## 2 市内小学生向けアンケート結果

(1)あなたの学校名を教えてください。

	3年生	5年生	合計
田原	68	48	116
南	28	25	53
忍ヶ丘	39	31	70
四條躰	69	99	168
岡部	64	67	131
くすのき	76	57	133
合計	344	327	671

(2)読書は好きですか？

	3年生		5年生		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①好き	177	51%	133	41%	310	46%
②どちらかという好き	103	30%	95	29%	198	30%
③どちらでもない	34	10%	64	20%	98	15%
④どちらかという嫌い	14	4%	17	5%	31	5%
⑤嫌い	16	5%	18	6%	34	5%
合計	344	100%	327	100%	671	100%

(3)前の質問で「どちらかという嫌い」「嫌い」と回答した人にお聞きします。読書が嫌いな理由は何ですか？

	3年生		5年生		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①漢字が苦手だから	3	10%	3	9%	6	9%
②文章を読むのが苦手だから	13	43%	10	29%	23	35%
③読んでも楽しくないから	5	17%	7	20%	12	18%
④めんどうだから	9	30%	15	43%	24	37%
⑤その他	0	0%	0	0%	0	0%
合計	30	100%	35	100%	65	100%

(4)ふだん、1か月の間にどのくらい本を読みますか？

	3年生		5年生		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①ほとんど読まない	47	14%	70	21%	117	17%
②1冊	56	16%	59	18%	115	17%
③2～5冊	101	29%	108	33%	209	31%
④6～9冊	52	15%	34	10%	86	13%
⑤10冊以上	88	26%	56	17%	144	21%
合計	344	100%	327	100%	671	100%

<参考>読書の好き嫌いとは本を読む冊数との相関関係

1か月の間に読む冊数	読書は好きか											
	好き		どちらかという好き		どちらでもない		どちらかという嫌い		嫌い		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ほとんど読まない	16	5%	27	14%	36	37%	18	58%	20	59%	117	17%
1冊	40	13%	38	19%	21	21%	6	19%	10	29%	115	17%
2～5冊	90	29%	84	42%	29	30%	3	10%	3	9%	209	31%
6～9冊	48	15%	31	16%	3	3%	3	10%	1	3%	86	13%
10冊以上	116	37%	18	9%	9	9%	1	3%	0	0%	144	21%
合計	310	100%	198	100%	98	100%	31	100%	34	100%	671	100%

(5)どんな本が好きですか？(2つまで選んで教えてください)

	3年生		5年生		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①絵本	120	35%	59	18%	179	27%
②小説などの読み物	111	32%	157	48%	268	40%
③伝記	28	8%	32	10%	60	9%
④歴史	55	16%	44	13%	99	15%
⑤乗りもの	10	3%	13	4%	23	3%
⑥生きもの	88	26%	60	18%	148	22%
⑦算数・科学	21	6%	22	7%	43	6%
⑧スポーツ	58	17%	40	12%	98	15%
⑨工作の本(ものを作るための本)	39	11%	23	7%	62	9%
⑩その他	70	20%	80	24%	150	22%
合計	600	174%	530	162%	1130	168%
回答者数	344	100%	327	100%	671	100%

(6)読書以外で好きなことはありますか？(2つまで選んで教えてください)

	3年生		5年生		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①スポーツ	139	40%	127	39%	266	40%
②ゲーム	235	68%	229	70%	464	69%
③テレビ・DVD	54	16%	35	11%	89	13%
④インターネット	22	6%	42	13%	64	10%
⑤音楽	69	20%	70	21%	139	21%
⑥絵をかく	100	29%	69	21%	169	25%
⑦その他	25	7%	18	6%	43	6%
合計	644	187%	590	180%	1234	184%
回答者数	344	100%	327	100%	671	100%

<参考>読書以外で好きなことと本を読む冊数との相関関係

読書以外で好きなこと	1か月の間に読む冊数											
	ほとんど読まない		1冊		2～5冊		6～9冊		10冊以上		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
スポーツ	43	37%	46	40%	101	48%	27	31%	49	34%	266	40%
ゲーム	91	78%	87	76%	135	65%	57	66%	94	65%	464	69%
テレビ・DVD	9	8%	17	15%	23	11%	17	20%	23	16%	89	13%
インターネット	12	10%	14	12%	18	9%	4	5%	16	11%	64	10%
音楽	20	17%	20	17%	44	21%	21	24%	34	24%	139	21%
絵をかく	25	21%	22	19%	54	26%	28	33%	40	28%	169	25%
その他	7	6%	5	4%	13	6%	7	8%	11	8%	43	6%
合計	207	177%	211	183%	388	186%	161	187%	267	185%	1234	184%
回答者数	117	100%	115	100%	209	100%	86	100%	144	100%	671	100%

(7)業間やお昼休みの時間に、どのくらい学校の図書室へ行きますか？

	3年生		5年生		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①1週間のうちに3回以上	39	11%	26	8%	65	10%
②1週間のうちに1～2回	56	16%	68	21%	124	18%
③1か月のうちに2～3回	61	18%	45	14%	106	16%
④学期のうちに2～3回	55	16%	50	15%	105	16%
⑤ほとんど行かない	133	39%	138	42%	271	40%
合計	344	100%	327	100%	671	100%

(8)四條畷図書館または田原図書館へは、どのくらい行きますか？

	3年生		5年生		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①よく行く	62	18%	14	4%	76	11%
②ときどき行く	109	32%	96	29%	205	31%
③ほとんど行かない	138	40%	169	52%	307	46%
④行ったことがない	35	10%	48	15%	83	12%
合計	344	100%	327	100%	671	100%

(9)小さいころに、お家の人に本を読んでもらっていましたか？

	3年生		5年生		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①よく読んでもらっていた	170	49%	129	39%	299	45%
②ときどき読んでもらっていた	92	27%	104	32%	196	29%
③あまり読んでもらっていなかった	31	9%	22	7%	53	8%
④おぼえていない	51	15%	72	22%	123	18%
合計	344	100%	327	100%	671	100%

<参考>小さい頃の読み聞かせと読書好きとの相関関係

読書は好きか	小さい頃の読み聞かせ									
	よく		ときどき		あまり		覚えていない		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
好き	172	58%	71	36%	23	43%	44	36%	310	46%
どちらかという好き	80	27%	68	35%	15	28%	35	28%	198	30%
どちらでもない	29	10%	36	18%	8	15%	25	20%	98	15%
どちらかという嫌い	7	2%	14	7%	3	6%	7	6%	31	5%
嫌い	11	4%	7	4%	4	8%	12	10%	34	5%
合計	299	100%	196	100%	53	100%	123	100%	671	100%

(10)スマートフォンやタブレット、パソコンで本を読んだことがありますか？

	3年生		5年生		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①ある	149	43%	139	43%	288	43%
②ない	195	57%	188	57%	383	57%
合計	344	100%	327	100%	671	100%

(11)ある場合は、一番読んだことがある本を選んでください。(教科書以外で教えてください)

	3年生		5年生		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①絵本	40	27%	8	6%	48	17%
②小説などの読み物	18	12%	39	28%	57	20%
③まんが	85	57%	85	61%	170	59%
④その他	6	4%	7	5%	13	5%
合計	149	100%	139	100%	288	100%

### 3 市内中学生向けアンケート結果

(1)あなたの学校名と学年を教えてください。

	1年生	3年生	合計
田原	72	72	144
四條躰	160	169	329
西	125	64	189
合計	357	305	662

(2)読書は好きですか？

	1年生		3年生		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①好き	107	30%	113	37%	220	33%
②どちらかという好き	95	27%	70	23%	165	25%
③どちらでもない	95	27%	73	24%	168	25%
④どちらかという嫌い	28	8%	15	5%	43	6%
⑤嫌い	32	9%	34	11%	66	10%
合計	357	100%	305	100%	662	100%

(3)普段、1か月の間にどのくらい本を読みますか？

	1年生		3年生		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①ほとんど読まない	103	29%	109	36%	212	32%
②1冊	94	26%	102	33%	196	30%
③2～5冊	102	29%	67	22%	169	26%
④6～9冊	22	6%	7	2%	29	4%
⑤10冊以上	36	10%	20	7%	56	8%
合計	357	100%	305	100%	662	100%

<参考>読書の好き嫌いと本を読む冊数との相関関係

1か月の間に読む冊数	読書は好きか											
	好き		どちらかという好き		どちらでもない		どちらかという嫌い		嫌い		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ほとんど読まない	16	7%	31	19%	81	48%	30	70%	54	82%	212	32%
1冊	49	22%	66	40%	65	39%	9	21%	7	11%	196	30%
2～5冊	85	39%	58	35%	20	12%	3	7%	3	5%	169	26%
6～9冊	24	11%	5	3%	0	0%	0	0%	0	0%	29	4%
10冊以上	46	21%	5	3%	2	1%	1	2%	2	3%	56	8%
合計	220	100%	165	100%	168	100%	43	100%	66	100%	662	100%

(4)好きな本のジャンルは何ですか?(2つまで選んで教えてください)

	1年生		3年生		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①小説	244	68%	226	74%	470	71%
②伝記	31	9%	19	6%	50	8%
③歴史	53	15%	37	12%	90	14%
④政治・経済	3	1%	17	6%	20	3%
⑤数学	9	3%	4	1%	13	2%
⑥科学	23	6%	27	9%	50	8%
⑦音楽	19	5%	19	6%	38	6%
⑧美術	14	4%	7	2%	21	3%
⑨スポーツ	91	25%	47	15%	138	21%
⑩その他	90	25%	74	24%	164	25%
合計	577	162%	477	156%	1054	159%
回答者数	357	100%	305	100%	662	100%

(5)読む本を選ぶ時に参考になるものは何ですか?(2つまで選んで教えてください)

	1年生		3年生		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①インターネットやテレビなどのメディア	156	44%	149	49%	305	46%
②友達のおすすめ	102	29%	84	28%	186	28%
③先生のおすすめ	12	3%	8	3%	20	3%
④家族のおすすめ	38	11%	34	11%	72	11%
⑤本屋で見て	181	51%	168	55%	349	53%
⑥図書館のおすすめ	56	16%	31	10%	87	13%
⑦その他	29	8%	27	9%	56	8%
合計	574	161%	501	164%	1075	162%
回答者数	357	100%	305	100%	662	100%

<参考>本を読む冊数と本選びの参考にするものとの相関関係

本選びの参考にするもの	1か月の間に読む冊数											
	ほとんど 読まない		1冊		2～5冊		6～9冊		10冊以上		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
インターネットやテレビなどのメディア	100	47%	99	51%	76	45%	13	45%	17	30%	305	46%
友達のおすすめ	68	32%	56	29%	44	26%	7	24%	11	20%	186	28%
先生のおすすめ	4	2%	7	4%	8	5%	1	3%	0	0%	20	3%
家族のおすすめ	20	9%	21	11%	25	15%	3	10%	3	5%	72	11%
本屋で見て	90	42%	102	52%	99	59%	19	66%	39	70%	349	53%
図書室のおすすめ	21	10%	20	10%	27	16%	4	14%	15	27%	87	13%
その他	16	8%	12	6%	12	7%	3	10%	13	23%	56	8%
合計	319	150%	317	162%	291	172%	50	172%	98	175%	1075	162%
回答者数	212	100%	196	100%	169	100%	29	100%	56	100%	662	100%

(6)読書以外で好きなことはありますか？(2つまで選んで教えてください)

	1年生		3年生		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①スポーツ	160	45%	112	37%	272	41%
②ゲーム	199	56%	154	50%	353	53%
③テレビ・DVD	49	14%	61	20%	110	17%
④インターネット	74	21%	63	21%	137	21%
⑤音楽	122	34%	140	46%	262	40%
⑥絵を描く	63	18%	38	12%	101	15%
⑦その他	12	3%	11	4%	23	3%
合計	679	190%	579	190%	1258	190%
回答者数	357	100%	305	100%	662	100%

<参考>読書以外で好きなことと本を読む冊数との相関関係

読書以外で好きなこと	1か月の間に読む冊数											
	ほとんど 読まない		1冊		2～5冊		6～9冊		10冊以上		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
スポーツ	103	49%	92	47%	49	29%	10	34%	18	32%	272	41%
ゲーム	120	57%	98	50%	96	57%	15	52%	24	43%	353	53%
テレビ・DVD	29	14%	38	19%	29	17%	5	17%	9	16%	110	17%
インターネット	44	21%	39	20%	41	24%	4	14%	9	16%	137	21%
音楽	79	37%	76	39%	76	45%	12	41%	19	34%	262	40%
絵を描く	18	8%	26	13%	33	20%	6	21%	18	32%	101	15%
その他	5	2%	5	3%	3	2%	3	10%	7	13%	23	3%
合計	398	188%	374	191%	327	193%	55	190%	104	186%	1258	190%
回答者数	212	100%	196	100%	169	100%	29	100%	56	100%	662	100%

(7)学校の図書室へはどのくらい行きますか？

	1年生		3年生		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①1週間のうちに3回以上	30	8%	24	8%	54	8%
②1週間のうちに1～2回	35	10%	15	5%	50	8%
③1か月のうちに1～2回	57	16%	21	7%	78	12%
④学期のうちに2～3回	55	15%	50	16%	105	16%
⑤ほとんど行かない	180	50%	195	64%	375	57%
合計	357	100%	305	100%	662	100%

(8)四條畷図書館または田原図書館へは、どのくらい行きますか？

	1年生		3年生		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①よく行く	16	4%	14	5%	30	5%
②ときどき行く	69	19%	35	11%	104	16%
③ほとんど行かない	225	63%	205	67%	430	65%
④行ったことがない	47	13%	51	17%	98	15%
合計	357	100%	305	100%	662	100%

(9)小さい頃に、お家の人に本を読んでもらっていましたか？

	1年生		3年生		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①よく読んでもらっていた	128	36%	151	50%	279	42%
②ときどき読んでもらっていた	114	32%	76	25%	190	29%
③あまり読んでもらっていなかった	22	6%	19	6%	41	6%
④覚えていない	93	26%	59	19%	152	23%
合計	357	100%	305	100%	662	100%

<参考>小さい頃の読み聞かせと読書好きとの相関関係

読書は好きか	小さい頃の読み聞かせ									
	よく		ときどき		あまり		覚えていない		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
好き	122	44%	51	27%	15	37%	32	21%	220	33%
どちらかという好き	73	26%	47	25%	7	17%	38	25%	165	25%
どちらでもない	58	21%	62	33%	9	22%	39	26%	168	25%
どちらかという嫌い	10	4%	13	7%	5	12%	15	10%	43	6%
嫌い	16	6%	17	9%	5	12%	28	18%	66	10%
合計	279	100%	190	100%	41	100%	152	100%	662	100%

(10)電子書籍を読んだことがありますか？

	1年生		3年生		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①ある	172	48%	183	60%	355	54%
②ない	185	52%	122	40%	307	46%
合計	357	100%	305	100%	662	100%

(11)電子書籍を読んだことがある人にお聞きします。漫画以外で一番よく読むものは何ですか？

	1年生		3年生		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①小説	75	44%	68	37%	143	40%
②雑誌	5	3%	14	8%	19	5%
③参考書や辞書など	6	3%	9	5%	15	4%
④漫画以外は読まない	85	49%	87	48%	172	48%
⑤その他	1	1%	5	3%	6	2%
合計	172	100%	183	100%	355	100%